

# 令和2年度教育委員会臨時会会議録

【日時】 令和2年8月23日（日）  
【開会】 10時00分  
【閉会】 15時26分  
【場所】 川崎市総合教育センター 第1研修室

## 【出席委員】

教育長 小田嶋 満	教育長職務代理者 岡田 弘
委員 中村 香	委員 高橋 美里
委員 岩切 貴乃	委員 石井 孝

## 【出席職員】

教育次長 石井 宏之	
教育委員会事務局担当理事 総務部長事務取扱 亀川 栄	
学校教育部長 森 有作	
総合教育センター所長 市川 洋	
庶務課担当課長 瀬川 裕	
指導課長 細見 勝典	カリキュラムセンター指導主事 松本 崇
指導課担当課長 武田 充功	カリキュラムセンター指導主事 吉田 崇
指導課担当課長 高山 深紀世	カリキュラムセンター指導主事 伊藤 由佳子
指導課担当課長 濱野 雄功	カリキュラムセンター指導主事 長澤 秀行
指導課課長補佐 小嶋 健司	カリキュラムセンター指導主事 門口 知弘
総合教育センター総務室長 岩城 美由紀	カリキュラムセンター指導主事 望月 隆
カリキュラムセンター室長 辰口 直美	カリキュラムセンター指導主事 越 有里
カリキュラムセンター担当課長 宮嶋 俊哲	カリキュラムセンター指導主事 鬼頭 洋司
カリキュラムセンター指導主事 伊藤 悦子	カリキュラムセンター指導主事 岡部 啓子
カリキュラムセンター指導主事 鶴木 朋和	カリキュラムセンター指導主事 山中 美奈子
調査・委員会担当係長 長谷山 大介	
書記 間山 篤史	

【署名人】 委員 高橋 美里 委員 岡田 弘

(10時00分 開会)

## 1 開会宣言

【小田嶋教育長】

ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。

## 2 開催時間

【小田嶋教育長】

本日の会期は、10時00分から16時45分までといたします。

## 3 傍聴 (傍聴者 会場内62名・ロビー50名)

【小田嶋教育長】

本日は、7月14日の教育委員会定例会にて、「川崎市教育委員会会議規則」及び「川崎市教育委員会傍聴規則」に基づき、傍聴人の定員を62名とし、定員を超えた場合には抽せんとすることを決定いたしました。傍聴希望者が非常に多く来場しましたので、抽せんに外れた方々も、ロビーにて傍聴を許可することに異議はございませんでしょうか。

【各委員】

<了承>

【小田嶋教育長】

それでは、そのように決定いたします。

なお、「川崎市教育委員会傍聴人規則」により、傍聴する際は、議事に対し批評を加え、または可否の表明や会議の円滑な進行を妨げるような行為は禁止されております。このような行為が見られた場合には、退出していただきますので、御了承をお願いいたします。

また、ロビーにて傍聴する方々につきましても、「川崎市教育委員会傍聴人規則」の規定に従って、傍聴いただきますよう御協力をお願いいたします。

また、報道機関より撮影などの申し出がございますが、「川崎市教育委員会傍聴人規則」第4条ただし書きの規定により、ただいまから議事事項に入るまでの間に限り、撮影などの許可をしてもよろしいでしょうか。

【各委員】

<了承>

【小田嶋教育長】

それでは、報道機関に限り、ただいまから議事事項に入るまでの間、「川崎市教育委員会傍聴人規則」第4条ただし書きの規定により、会議中の撮影などの許可をいたします。

## 4 署名人

### 【小田嶋教育長】

本日の会議録署名人は、「川崎市教育委員会会議規則」第15条の規定により、本職から指名いたします。

高橋委員と岡田委員にお願いいたします。

### (令和3年度使用教科用図書の採択までの経過・採択について)

### 【小田嶋教育長】

議事に入ります前に、教科用図書の採択までの経過等について確認したいと思いますので、事務局から説明をお願いいたします。

それでは、指導課長、お願いいたします。

### 【細見指導課長】

それでは、はじめに、本年5月12日に御承認いただきました「令和3年度川崎市使用教科用図書採択方針」について、再度簡単に御説明申し上げます。

資料の1ページをごらんください。「2 採択の基本的な考え方」の「(1) 採択の権限」でございしますが、2行目、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律及びその他関係法令に基づき、教育委員会がその責任と権限のもと、公正かつ適正に実施」いたします。

次に、「(2) 採択する教科用図書」でございしますが、今年度につきましては、令和3年度に使用する教科用図書を採択いたします。また、採択対象とする教科用図書につきましては、文部科学省が作成する教科書目録に登載された教科用図書のうちから採択するものといたします。

ただし、「学校教育法附則第9条」の規定によりまして、特別支援学校、特別支援学級におきましては、下段の枠内の「※4」にございますように、教科書目録に登載された教科用図書以外にも使用できるとされておりますので、この教科用図書も採択できるものといたします。

資料を1枚おめくりいただき、2ページをごらんください。「(3) 教科用図書の調査審議」でございしますが、教科書目録に登載された教科用図書について、調査審議の観点に基づき、十分に行ったものでございます。

資料を1枚おめくりいただき、3ページをごらんください。「3 教科用図書の調査審議」の「(5) 調査審議の観点」でございしますが、教育基本法及び学校教育法の理念の実現に向けて、次の5つの観点から検討して、最も適切と思われるものを採択いたします。資料を1枚おめくりいただき、4ページをごらんください。1点目は、「学習指導要領との関連」、2点目は、「編集の趣旨と工夫」、以下、「内容」、「構成・分量・装丁」、「表記・表現」でございします。

資料を1枚おめくりいただき、5ページをごらんください。「4 教科用図書の採択手順」でございします。恐れ入りますが、「(2) 中学校及び川崎高等学校附属中学校用教科用図書」につきましては、8ページのフロー図をごらんください。こちらの「フロー図①」は、「中学校における教科用図書の採択手順」を示しております。今年度は、中学校の教科用図書全てについて、当該フロー図のとおり進めてまいりました。なお、高等学校並びに特別支援学校及び特別支援学級で

使用する教科用図書につきましては、9ページと10ページにフロー図を示してございますので、適宜御確認いただければと存じます。

次に、これまでの調査研究、審議の経過について御説明いたしますので、11ページの「採択スケジュール」をごらんください。はじめに、本年5月12日の教育委員会会議におきまして、採択の手順、採択に係る諮問について御審議いただきました。これを受けまして、5月18日に「第1回 川崎市教科用図書選定審議会」を開催いたしました。また、「調査研究会」でございしますが、こちらは中学校の調査研究会、高等学校の調査研究会等をそれぞれ実施し、それぞれの研究会において教科用図書の調査研究を行いました。6月12日から8月12日にかけては、広く市民の方々に教科用図書を御覧いただくため、総合教育センターなど8会場におきまして、「教科用図書展示会」を開催し、651件の意見を頂いたところでございます。7月6日、同月13日及び同月20日には、「教科用図書選定審議会」を開催いたしまして、調査研究会の報告を参考に、教科用図書の審議を行いました。また、審議結果につきましては、教育委員会へ答申したところでございます。

次に、12ページをごらんください。こちらは、先ほど御説明いたしました、教科用図書展示会の来場者数及び各会場で頂いた意見の件数をまとめたものでございます。

以上が、これまでの教科用図書採択に係る経過報告でございます。

一方、既に教育委員の皆様には、お忙しい中、教科用図書に何度も目を通していただいているところでございます。また、教科用図書選定審議会からの答申や、各学校からの報告を取りまとめた調査研究報告書、全ての教科用図書に関する調査研究報告書及び教科用図書展示会アンケートにつきましても、事前に十分に参考にしていただいているところでございます。なお、アンケートにつきましては、内容を要約せずに、そのままの形で御覧いただいております。

本日は、中学校の教科用図書の採択に始まり、川崎高等学校附属中学校の教科用図書、小学校の教科用図書、高等学校の教科用図書、特別支援学校及び特別支援学級の教科用図書の順で採択をお願いしたいと存じます。

説明は以上でございます。よろしく御願いいたします。

#### 【小田嶋教育長】

ただいまの説明により、「教科用図書採択方針」に基づいた採択手順を確認いたしました。採択手順につきまして、御意見や御質問等はございますか。

よろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<了承>

#### 【小田嶋教育長】

それでは、これまでの経過等を踏まえまして、中学校教科用図書より順に採択を行っていくことといたします。審議に入る前に、各委員の皆様方に少し採択に際しましての関連した状況を3点確認して、共有したいと思います。

昨年の小学校に続きまして、新学習指導要領に対応した中学校の教科書採択ということで、各委員の皆様には、早い時期から相当の時間をかけて事前調査をしていただいております。

新学習指導要領は、今年度より小学校で全面実施、来年度は中学校で全面実施となりますが、新型コロナウイルスの影響、またそれに伴いましてGIGAスクール構想の前倒しで、今後、学校の在り方や学習・指導の在り方も大きく変わることが予想されています。今回の改訂の大きな柱であります「主体的・対話的で深い学び」、これも今後は、対面での授業と端末の家庭での活用も含めて、ICTを用いた学習とのベストミックスの中で、それを模索していくことになると思います。しかし、今回の中学校の新しい教科書では、そのような状況変化への対応は十分には、なされていないと考えています。しかしながら、ほとんどの教科書にQRコードが採用されていて、その内容と教科の特性によっては、1人1台端末によって、学習を充実させる大きなポイントになるであろうと考えています。このことが1点目です。

次に、教員の働き方・仕事の進め方改革に関連しまして、その効果も少しずつ成果が出てきている面もありますが、まだまだ課題が多い中で、新型コロナウイルス感染症の防止ですとか、また、今もGIGAスクールの1人1台端末への対応の準備等、今後も様々な対応が現場では必要になることが予想されます。新学習指導要領に対応した学習指導の充実には、十分な時間をかけていく必要がありますが、今までに使い慣れている教科書が変わることによる教員の負担増という点も考慮する必要があると考えています。中学校では、小学校の教員のように全教科を教えるというのと違って、専門性も高いわけですが、それでも経験10年未満の若い教員が半数以上を占めているという川崎の現状を考えますと、今までの教材研究や教科での研究の成果や、資料、プリント等を、新しい指導要領に合わせて改善を図りながら活用していくためにも、現行の教科書の継続という視点も必要だと考えておりますし、現場からのそのような声も聞いています。これが2点目です。

また、3点目といたしまして、特に社会科の教科書に関しましては、先の請願審査の際にも話題としましたが、主権者教育の重要性を鑑みて、どの教科書を使うにしても、指導する教員が政治的中立性を保ちながら、生徒が多面的・多角的な視点を持って、政治的教養を高めていくための指導をすることが大切だということ。そして、そのためにも、社会的事象がバランスよく配置され、多様な考えが引き出されるような教科書を大切にしていきたいということを委員の皆様と確認しました。地理、歴史、公民の教科書では、このような視点も共有したいということ。これが3点目です。

以上、3点につきまして、各委員からお考えがありましたら、御発言をお願いいたします。

特によろしいでしょうか。

それでは、先ほど指導課長から説明のあった5つの調査審議の観点と、今確認しました3点、それに「かわさき教育プラン」や各委員が特に重視した独自の観点もあると思いますが、それらをこれからの審議の中で適宜示していただきながら進めていきたいと思っております。

報道機関の皆様方におかれましては、撮影はここまでとさせていただきますので、御協力をよろしくお願いいたします。

## 5 議事事項

### 議案第18号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について

【小田嶋教育長】

それでは、議事に入ります。

「議案第18号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」の説明を、指導課長、お願いいたします。

**【細見指導課長】**

それでは、「議案第18号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」御説明申し上げます。

議案書の表紙を1枚おめくりください。今回、調査研究の対象となりました教科用図書一覧で、3ページまでございまして、この中から令和3年度に使用する教科用図書の採択を行うものでございます。

なお、資料といたしまして、3種類の資料をお配りしております。「資料1」は、教科用図書選定審議会が教科用図書の内容を審議し、取りまとめた「審議結果(⑦)」でございます。「資料2」は、「川崎の子どもが学習を進めていく上での視点」でございます。「資料3」は、調査研究会からの調査研究報告でございます。「調査研究報告(⑥)」は、調査研究会による全ての教科用図書に関する報告書でございまして、「(⑤)」は各学校からの報告を取りまとめた報告書でございます。なお、「(⑦)」や「(⑥)」、「(⑤)」につきましては、先ほど御説明いたしました採択方針の資料8ページにございます、「フロー図①」に記載されている丸数字に対応した資料となっております。当該資料につきましては、事前に教育委員の皆様へお配りし、採択に当たっての参考資料として、活用されているものでございます。

説明は以上でございます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

ただいま説明いただきましたが、資料につきましては、これまで委員の皆様には、教科書の調査研究の過程で十分に御覧いただいていると思います。

それでは、教科ごとに採択をしてまいりたいと思います。

**①国語**

**【小田嶋教育長】**

まず、では国語から始めてまいります。

委員の皆様から御意見をお願いいたします。

石井委員、お願いします。

**【石井委員】**

国語では、導入部の工夫としては、学びの整理、表現力を高める点などを中心に、また、私自身、20年ほど前に在外勤務から帰国し、当時、息子たちがやっぱり国語の分野では苦勞した経験がありますので、漢字の学習ですとか、読書、こういったところも中心に審議会結果なども参考にさせていただきながら、教科書を拝見しました。結論は、光村図書がよいのではないかと思います。

まず、学び方の整理として、光村図書では、「学習の窓」や「情報整理のレッスン」、「思考のレッスン」等が巻末に載っておりまして、学び方を学ぶにはとても使いやすく、また、該当ページもさっと確認できるよう、ページ数も記載されている点など、使いやすく整理されていると感じました。イラストや吹き出しのセリフも楽しくて、学習できる雰囲気がありました。

表現力を高める点につきましても、光村図書では「季節のしおり」というものに、詩や短歌、俳句、小説の一節を載せて、日本独特のいろいろな季節感の表現が味わえるのがとてもよい、そういうふうに思いました。

漢字の学習ですが、光村は挿絵が非常に楽しくて、例えば、1年生の教科書では、漢字の組み立てと部首の説明で、「休」という漢字の説明に木と人の絵を組み合わせたたり、映画、劇場、座席などという言葉を使った文章づくりで、映画のシーンや座席に座って映画を見ている様子の挿絵が加わって、大変イメージしやすい工夫があるなど。そういったものが随所にあって、非常に興味も持って漢字学習が進むと思いました。

また、読書への興味ですけれども、こちらも「本の紹介合戦をしよう」とか、「読書ポスターを作ろう」、「読みたい本のリストを作ろう」などと読書を促しておりまして、その後、作品の一部が掲載されていまして、一部ですから、「続きはこちら」というふうに書いてあるんですが、読書意欲を掻き立てる紹介があり、実際にその続き、本を読んできたくなるような、そういう読書好きな生徒が増えてくるような工夫がされているな、というふうに思いました。

そういったところ、全体も見て光村図書がよいと思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

御自身の在外勤務の経験なども踏まえまして、光村図書ということで今、推薦いただきました。

ほかの委員の皆様、いかがでしょう。

岡田委員、お願いします。

#### 【岡田教育長職務代理者】

今回の学習指導要領の改訂は、これまでのものとは少し違っておりまして、何を理解しているか、何ができるかという「知識・技能」、それから理解していること、できることをどう使うかという「思考力・判断力・表現力等」、そして、先ほど教育長がおっしゃられたように、「主体的・対話的で深い学び」に関わる構成になっておりました。

主体的な学びが促進されるようにということで、各出版社とも非常に工夫されておりまして、その分、分量も厚くなってきているのかなというふうには思いました。そういった点を踏まえて、さらに、「かわさき教育プラン」が目指しているもの、これにどう対応しているかどうか、また、川崎市が教育の中で進めております多文化共生の視点、こういったものを頭に置きながら読ませていただきました。結論から申しますと、私も光村図書がいいというふうに思いました。

例えば、「知識・技能」のところではいきますと、「季節のしおり」というふうにして、詩や短歌や俳句、小説の一節を掲載しております。これは、多文化共生という視点に立ったとき、外国に由来する方々が増えていってしゃるということ踏まえたとき、日本文化、それから日本の持っているもの、これをこういったところで示しているということで、日本が大好きになってもらって、川崎が大好きになってもらう手がかりになるな、というふうに感じました。

それから、主体的な学びということ踏まえたときに、「学習の窓」や「思考のレッスン」というようなことで、例えば、光村の264ページ、268ページに示されています「学習の窓」とか、「思考のレッスン」というのは、とてもよく整理されていて、これは学びを深めるのに役立つな、というふうに思いました。

もちろん、各社ともそういう御工夫はなさっていらっしゃるんですけども、私はやっぱり、この光村のまとめ方がすごくいいなというふうに思いました。

それから、「かわさき教育プラン」の視点に立ったとき、読書生活を豊かに、読書に親しむという「豊かな心の育成」ということを川崎市は推進しているということでもありますし、それを踏まえたときに、例えば、90ページから93ページ、光村の87ページに出てくる「西の魔女が死んだ」という作品があるんですが、これは実はテーマは、テーマというか、いじめに関することを通しての不登校ということがありまして、そこなんか元になっていて、こういう話が出て、つくられていて、それを踏まえた上で、さらに読書にどう広げていくかということ示されておりました。これもすごくいいというふうに、川崎が目指しているものに合致しているな、というふうに思います。

それから、QRコードでございますけども、作家や筆者のインタビュー動画が示されておりましたし、それから表記の点では、これも各社とも同じでございますけども、カラーユニバーサルデザインを採用しているという、こういった点を総合的に勘案して、私も光村がよいというふうに思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

お二方、光村を挙げていただいています、ほかの委員、いかがでしょうか。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

別の観点から1つ、今回の私も教科書を見てびっくりしたんですけども、いろいろな表現活動が各学年に配置されていて、実践的というか、国語を、言葉を使っていくというところを育てる活動はすごくいろんなところに工夫されて載っていたなというふうに思いました。

各教科書に共通するような活動のところを幾つか比べてみたんですけども、例えば、2年生だと、物語文を書くというところがあるんですけども、光村は非常に、物語を書くことこの構成とか展開を重視して、すごく詳しく説明されていて、起承転結ですとかが非常に分かりやすい図のようなもので説明されていて、いいなと思いました。

それから、3年生も、スピーチと批評文を書くというところで、同じようなかなり似た題材で活動するということがあったんですけども、そちらを見ても、光村が一番、詳しく書き過ぎず、内容についてではなくて、どういうふうに考えるのかとか、プロセスをしっかりと説明して、分かりやすく書いてあったので、そういうところで光村がすごくいいなというふうに思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

また、別の視点ですね。表現活動、書くことの活動の視点から光村を挙げていただきました。



ほかにはいかがでしょうか。

中村委員。

#### 【中村委員】

そのような各活動のプロセス、情報というものが新しい学習指導要領で入ってきまして、それに関しては、光村は分かりやすいなと思いました。そういうプロセスとか、考え方の問題だけではなくて、日本語ってこんなにきれいなんだということを改めて考えることができるようになったのは、例えば、先ほど石井委員とかもおっしゃっていましたが、「季節のしおり」とか、季節の言葉、色の言い方とか、時を表す言葉が日本語にはこんなにいっぱいあるんだということを私は改めて考えさせられたというか、すてきななと思いました。

そのことに関しては、「(⑤)」の学校の先生方からの御意見としても、一番目のところに、「四季にまつわる詩歌や季語を紹介したり、古典を掘り下げて学習できるよう、伝統的な文化に関する資料を掲載したりしている」というところに多分含まれているんだと思いますし、「(⑦)」の最終的な審議会の資料においても、2番目のところの「語彙を豊かに」というところに反映されていて、先生方の意見としても、その辺は大事にされているんじゃないかなと思いましたので、光村がいいと思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

学校からの調査研究、あとは調査審議会の結果も踏まえて、光村ということで上げていただきました。

岩切委員はいかがでしょう。

#### 【岩切委員】

私も全体を見まして、読書教材の充実であるとか、あるいは語彙学習に関する工夫というのは、どの教科書もかなり工夫されているなというふうに思いました。

それから、情報の整理とか言語活動についても、各学年別に練られた教材になっていたなというふうに思っていて、先ほど、「かわさき教育プラン」という話もあったんですけども、考えさせるような、そういった取組があるということがいいなというふうに思っておりまして、いろいろと教科書を見ながら、実は、どの教科書もいろいろな工夫がありまして、例えば、教育出版は、実は各単元の最初に「学びナビ」というのがあって、非常に導入として分かりやすくなっているなと思ったんです。ただ、分かりやすい一方で、子どもたちが先にこれを読んでしまうと、作品に出会う前にいろんな方向性を示してしまうかなということを考えると、あまり先入観をなく、まず触れていくというような川崎市ならではのことを考えると、ちょっとこれはどうかなということでは思いました。

皆様もおっしゃっていましたが、「季節のしおり」、ああいったものもちょこちょこ入っているということで、触れやすいという意味で光村がいいなというふうに思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

皆さん、光村ということで。私も自分の専門の教科でもあって、大変興味深く調査研究しまして、どの教科書も言葉そのものを学び、活用する教科であることを明確にされて、本当にいろんな工夫がされて、掲載されている作品等も大変魅力的なものが多かったです。

今、お話がありました教育出版の「学びナビ」というのも非常に特徴的で、学習のポイントや方向性を事前に詳しく示しているなと思う部分と、今、岩切委員からもあったように、導入的に活用するにはちょっと盛りだくさんだなということですか、事前に学習の内容を提示し過ぎているなというふうに受け取る面もありまして、総合的に考えて、私も光村と。

特に、光村の評価すべきところは幾つかありますが、読書単元のことでお話がありましたけれど、今までにない形で、1年生は「本の中の中学生」として3作品、2年生は「翻訳作品を読み比べよう」という面白い取組、3年生の『『私の一冊』を探しにいこう』と、これが今までにない読書単元の形で、私は大変魅力的だなと思ひまして、そういったことも含めて、私も光村図書を挙げさせていただきたいと思ひます。

では、国語につきましては、光村を採択するという事でよろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<可決>

#### 【小田嶋教育長】

では、そのように決定をいたします。

## ②書写

#### 【小田嶋教育長】

続いて、書写に入ります。

では、書写につきまして御意見を願ひいたします。

岡田委員、願ひします。

#### 【岡田教育長職務代理者】

書写についても、先ほど申し上げましたような学習指導要領の趣旨を踏まえてということがあるんですけども、QRコードを最初に取り上げさせていただきますと、QRコードの中にそれぞれの筆順というか、書き方というか、そういったものが示されているかどうかということ。それから、書写の場合ですと、お手本になるものがどのように示されているのかということも大切な要素だなというふうに考えております。それから、具体的な書き方として、お手本になるようなもの、どう示されているのかな、というふうに思ひながら、各社を読ませさせていただきました。

そうした点を踏まえて、私は東京書籍の「新しい書写」がいいというふうに考えました。これは、先ほど言ひましたような点でいきますと、例えば、「書き初めをしよう」というようなところの、「文字のいずみ」というところで、「夢の実現」というお手本がありまして、これも大きく捉えていて、とてもいいものになっているなというふうに感じました。

それから、書写で学ぶことで、3年間の見通しを2ページ、3ページの最初のところで示して

おりまして、巻頭でこの書写で学ぶことというのが、とても3年間を見通した学びがここでしっかり目標設定ができるなというふうに思いました。

それから、表記や表現のところで、擬態語を使って書き方を丁寧に示しているというのも、これも先ほど申し上げました外国にルーツを持つ方々がこの学びをするときに、とてもこれは有効な手だてであるなというふうに思いました。

こういったような点と、それから、「古典をもとに」という94ページなんですけど、というものがあっていて、それが実は、小学校の学習を振り返ろうというようなところも踏まえていて、小学校の書写と中学校と高等学校の書写が円滑につながっていくという視点でこれが示されているのもとてもいいなというふうに私は思いました。

これらの点を踏まえて、私は東京書籍がいいというふうに思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

ほかの委員の方はいかがでしょうか。

岩切委員、お願いします。

#### 【岩切委員】

どの教科書も生徒の視点に立って考えたときに、生活に取り入れた事例があつて非常によかったなと思います。そして、生活に取り入れるという意味で考えた場合に、子どもたちが一番書く頻度が高いのは、やはり自分の名前だと思うんです。書写の作品にしても、書初めにしても、やはり日常の中で自分の名前はかなり多く書いています。生徒の立場になって考えますと、自分の名前を書くことを念頭に置いたとき、この巻末のところにいろいろな常用漢字表が掲載されているんですけども、実は、人名用の漢字表がついているのは、東京書籍と光村の2社になっていました。多分、子どもたちは自分の名前の文字を探すことになるのではないかなというふうに思いますと、私は東京書籍か光村の、このいずれかがいいと思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

同じく東京書籍を挙げていただきました。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

私は、小学校の書写の選定のときにもお話をしたんですけども、やはり書写なのでお手本がすごく大事だなというふうに思っておりまして、なので、お手本がどういうふうになっているかというところ、特に実物大のお手本が大事になってくるので、その辺りを見ました。

実物大のお手本が一番多く載っていたのが光村図書だったんですね。教科書ではないんですけど、光村図書は指導書についている附属のCD-ROMのほうに自由に先生たちが字を選んで、それをお手本にできるソフトが附属されているので、小学校のときもそれがすごくいいなと思ったので、光村がいいなと思ってはいるんですけど、硬筆の字の練習をする記入欄が光村は右側に書いてある率がやっぱりちょっと多くて、左利きのお子さんのことを考えると、下に書けるよ

うになっているほうがいいのかなどというふうには思っていて、そこでちょっと悩んでいるようなところでは。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

光村のよさも挙げていただきながら、課題として、小学校のときもたしか同じような課題があったと思うんですけど、左利きの子が硬筆で書くときの少し課題ということですね。

今、東書と光村が出ていますが、ほかの委員の方はいかがですか。

石井委員、お願いします。

**【石井委員】**

私も東京書籍がいいと思うんですが、先ほど岡田委員も仰っていらっしゃいましたが、筆遣いで擬態語を使っているということで、具体的に言うと、「ぴたっ」、「すう」、「とん」といったような表現で、実際に筆の動かし方にぴったりした表現で、生徒たちにも分かりやすいのではないかと感じました。

それから、巻末の「日本の文字文化、世界の文字文化」で、書初め、ドイツのカリグラフィとか、ウズベキスタンのアラビア書道を紹介しています。これは、やはり書写の多様性であるとか、多文化理解であるとか、他国の文字文化に触れる1枚ですけれども、良い提供だと思いました。そんな観点からも、東京書籍がよろしいのではないかと思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

中村委員はいかがでしょう。

**【中村委員】**

私も東京書籍がいいと思いました。理由は主に2つです。今は筆を使わないのに何で書写が必要なのかと思うお子さんも多いと思うのですけれども、書写がどういうふうに住んでいくのかということが詳しく書かれているということと、あと、QRコードのほうで、文字の動画と説明と朱書きみたいなものがありまして、分かりやすいのではないかと思います。

**【小田嶋教育長】**

東京書籍の声が多い中で、私も結論としては東京書籍でいいのかなど思っていますが、岩切委員と高橋委員からもあった光村については、評価する部分があって、別冊の「書写ブック」は、これは評価が、別冊ということで分かるかなと思いますが、QRコードで見ると、多分光村が一番充実しているように私は感じました。ただ、先ほどもやっぱり小学校のときもあった左利きへの配慮というか、課題があるということを考えて、あと、東書のほうは、先ほど書写で学ぶことのページのことが紹介されていましたが、学校からの調査研究でも、「主体的に学習に取り組む態度」で、そのページでの目標を掲載して、自己評価に活用するためのまとめ等が評価されているということも考えて、東書はQRコードも非常に充実しているということもあります。そういった意味で、私は東書を挙げていきたいと思います。

結論としましては、書写については東京書籍を採択するということがよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

では、そのように決定いたします。

**③社会（地理的分野）**

**【小田嶋教育長】**

続きまして、社会科に入ります。

社会科につきましては、地理からやっていきますが、冒頭に申し上げましたように、川崎が大事にしている多面的・多角的な視点ということも踏まえて、社会的事象をバランスよく取り上げていると、我々も、教員も生徒も保護者も感じられるような、そういった部分を重視したいと思っています。

そういった点も踏まえまして、現行のものと、またほかの教科書との特徴的なことを確認しながら、採択を進めてまいりたいと思います。

では、地理から進めてまいりますが、御意見をお願いいたします。

岡田委員、お願いします。

**【岡田教育長職務代理者】**

地理でございますが、先ほど来から申し上げているような視点と同時に、「かわさき教育プラン」の中での、川崎市のことが事例地としてどのように取り上げられているのか、これも先ほどのところにさらに加えていきたいというふうに思いながら、各社を読ませていただきました。そして、その中で、私は帝国書院の「中学生の地理」を、これがいいというふうに思いました。

まず、巻頭の5ページ、6ページのところに、この教科の「学習のしかた」ということで流れが示されていて、そしてさらに、「コラム」とか「特設ページ」、そういったところで「対話的な学び」や「深い学び」が促進されるように、それから「コラム」のところでは「技能をみがく」ということで、地理を学習する上での必要な基礎的な技能がしっかり身に着けられるようなもの、23のテーマでございますけども、それがしっかりと示されていました。「思考・判断・表現」のところでは、各章と節の末に「学習を振り返ろう」のコーナーがありまして、例えば、106ページなんですけども、そこで「学習を振り返ろう」ということで、「地理的な見方・考え方」を働かせた上で解決に取り組んでいって、さらにSDGs、持続可能な社会に向けての活動を示しているということでもあります。

それから、最初に申し上げるべきだったんですが、実は、学習指導要領解説の第1章の総説のところの「地理的分野」のところでも示されていることの中に、「日本の様々な地域の学習における防災学習の重視」ということが示されております。もちろん、その2つ前のところの「ウ」のところなんですけども、「世界の諸地域学習における地球的課題の視点の導入」ということも示されてお

りまして、これらのことを踏まえたときに、それぞれの教科書が本当に御工夫をなさっているというのが読み取れるんですけども、「主体的に学習に取り組む」といったところで、94ページ、95ページに見開きで世界の各州について示されておりまして、そこに日本の各地の単元に関することがイラストとか地図によって示されている。この2ページで見開きでとても見やすく、今示したような点がすごく学びやすくできているというふうに思いました。

SDGsに関しては、106、107ページに示されている。または、285ページに示されておりまして、こういった点を踏まえて、私は帝国書院がいいというふうに思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

帝国書院を挙げていただきました。

ほかの委員の方はいかがでしょうか。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

かなり言おうと思っていたことが岡田委員と重なる部分が多かったので、重ならない部分でということでお話をしたいと思うんですけども、まず4社ありまして、各教科書の構成がかなり似ていたの、結構比べるのが難しかったです。

その中で、現行の帝国書院との比較になってくると思うんですけども、岡田委員も少し触れられていたと思うんですけど、各節のまとめのところが、やっぱり帝国書院はよいなと思いました。もう一つ、東京書籍もまとめのところはすごくよいなと思って、どちらも確かめのページは帝国書院のほうが大きな地図が多くて見やすかったですけれど、その後の活動というか、そういうまとめの活動のところで、いろんな種類のまとめ方が取り上げられていたのが、東京書籍と帝国書院で、かつ、分かりやすく説明されていたかなというふうに思います。

あと、帝国書院の特徴としては、日本の各地方の説明の導入のところが、3ページ、ほかの出版社は2ページとか1ページなんですけれど、帝国書院は3ページになっていて、まず地図帳に載っている地図に各地方の特色ですとか、大事なポイントになるような絵なんかを書いてあって、非常に分かりやすいし、生徒さんの興味を引きつけるような導入になっているかなというふうに思って、現行の帝国書院でいいのかなというふうに思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

東京書籍と帝国を挙げていただきつつ、現行の帝国でいいという形でした。

ほかの委員さんはいかがですか。

では、岩切委員、お願いします。

#### 【岩切委員】

私は非常に地理が苦手だったものですから、子どもの視点でちょっと見させていただきました。先ほど来、出ておりますけれども、どの教科書も見開きで1時間単位みたいなそんなつくりになっていて、非常に簡潔に説明されていて、非常に分かりやすいというふうに思いました。

それから、また、どこの教科書もSDGsとの課題を考えるという視点が入っていて、非常に発展的に書かれているな、というふうに思いました。

苦手だった私が見て思ったところなんですけれども、まとめのところに、キーワードでその地域に必要な言葉をチェックするような項目があったのが、実は、教育出版と帝国書院でした。その言葉がどんな内容だったかを振り返ったりできるという意味で、この2冊が非常にいいなというふうに思いました。

それから、どこの出版社もキャラクターでいろんな導入とか、投げかけとか、それから課題を出していたりするんですけれども、地理的なものの見方、そういった観点で問いかけがされていたり、興味を導いてくれるという意味で帝国書院がいいかなというふうに思いました。

以上です。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

教育出版と帝国書院を挙げていただき、最終的には帝国書院がいいということです。

中村委員。

#### 【中村委員】

私も帝国がいいと思いました。主な理由としましては、最初に「地理的な見方・考え方」が書いてあり、地理とはどういう科目なのかが分かりやすい。2つ目が、「未来に向けて」というコラムで、環境、防災、共生に関する対話的学びを促す内容のところに読みごたえがありました。あと、3つ目が「私たちとの関わり」が全部に載っていて、学びと自分自身の生活などをつなげていけるのではないかとということで、帝国書院がいいと思います。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

現行の帝国書院を推す声が多いわけですが、石井委員はいかがでしょう。

#### 【石井委員】

もう皆さんがそれぞれ述べられたことと重複しますので端折りますけれども、まとめの部分にありますとか、各地方の単元の導入等は非常に見やすく、とてもよい部分が多いということで、皆さんの御意見に賛同します。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

先ほど、中村委員から「地理的な見方・考え方」というお話があって、私は今回、社会に限らずなんですけど、特に社会は、今回の指導要領の改訂では、各教科に「見方・考え方」というのが共通して示されていて、それが「主体的・対話的で深い学び」の鍵になるということが言われています。その「見方・考え方」が教科書でどのように分かりやすく示されているか、また、それは学習を進めていく中でまた深めていくことなので、それがどういうふうに活用されたり、深められたりしていくかということ、特に社会科については、地理、歴史、公民とも注目して見て

いきました。

どの教科書もいろいろな工夫はあるんですが、帝国書院がその中でも、冒頭で「地理的な見方・考え方」を明示して、その中で地理学習の全体像を示している。そして、歴史や公民との関係も大きく示しています。

「学習を振り返ろう」の部分でも、『『地理的な見方・考え方』を働かせて説明しよう』という形で連動したりして、非常にそこの扱いが有効だなというふうに感じていましたので、私も帝国書院を推していきたいと思います。

以上、結論としましては、地理につきましては、帝国書院を採択するというところでよろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<可決>

#### 【小田嶋教育長】

では、そのように決定いたします。

### ④社会（歴史的分野）

#### 【小田嶋教育長】

続きまして、歴史に移ります。

歴史は7社あるかと思いますが、御意見をお願いいたします。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

歴史なんですけれども、教科書会社が新しい出版社も増えたりして、いろんな出版社がありました。全体的なまず感想として、1授業単位で見ると、やはり地理とか公民と同じように、見開き2ページで1授業というふうなつくりになっていました。冒頭に目当てとか、その授業の狙いみたいなものが書いてあるというような、そういう構成についてはあまり違いがないな、というふうに思って読みました。どの出版社もいろんな資料なども載せて、工夫されていたと思います。

ただ、通年全部を通して見ますと、時代によって、全然違いがあまりないなというところと、情報量とかにすごく差が出たりするということで、各教科書会社の思いとか考えというのが、そういうところで特色として出ているのかな、というふうに感じました。

世の中には、様々歴史の捉え方については特にいろいろな考え方があるわけなんですけれども、やっぱり教科書として、生徒に授業で教える教材、題材だということをまず考えると、歴史をどういうふうに捉えるかという力を、生徒が歴史をどう捉えるかという、そういう力を育むための教材というふうに教科書のことを捉えましたので、そうすると、やっぱり教科書会社の考えとか思いがあまり強く出過ぎるところは、生徒の考えがそっちに引っ張られてしまうというか、生徒が自分自身でどう捉えるかというところをより伸ばしていくためには、なるべくバランスよく、いろんな時代のことが載っていて、子どもたちが自分たちでこういう並びで、こういう因果



関係で、こういう出来事が起きたのかな、とか、こういう歴史の流れだったんだな、とか、世界と日本はこうつながったんだな、というふうに、子どもたち自身が自分でそういうものをつかみ取っていくというような教科書がいいなというふうに思って選びました。

また、ちょっと触れましたけれど、学習指導要領にも示されている歴史の大きな大観をつかむ、大きな流れをつかむというところがすごく大事だなと。歴史の教科書って、私の昔の記憶だと、単語をたくさん、単語と年号をたくさん順番どおり覚えるというようところがやっぱりまだ残っていたし、そういうところが自分自身、苦手だ、つまらないな、とっていて、高校とかになって、歴史の流れをつかむということを知ると、すごく歴史が楽しくなった記憶もあるので、そういうところも大事にして選びたいなと思いました。

やはり、現行の教育出版と比較するという形で選ばせていただいたところもあるんですけど、私がいいなと思ったのは、現行の教育出版と、帝国書院です。

現行の教育出版は、各章のまとめのページがすごく充実していて、歴史の大きな流れをつかむという意味では、見開き2ページにわたって、大きく年表が載っていて、いろいろな出来事とか色がとか図とかで分けられたり、段も分けられたりして、非常に分かりやすく載っているな、捉えられるな、というふうに思いました。また、各章のまとめの3ページ目に言語的な活動というようなところも載っているんですけど、そこも充実しているなというふうに思いました。

帝国書院がいいなと思ったところは、各時代の文化を記述するページがすごく充実していて、日文も同じように充実していたんですけど、半ページに写真がたくさん載っていて、そのイメージで文化を捉えた後に、文章が出てくるというようなところの書き方ですとか、まとめのところも、こちらは縦書きの年表なんですけれど、割と見やすい年表だな、と思ったので、そこも評価をしております。

以上です。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

子どもの立場に立って、生徒が歴史をどう捉えるかと。そのための教材とそういった力を育むための教材としてバランスよくということで、教育出版と帝国書院を挙げていただいているというところです。

ほかの委員の方、いかがですか。

中村委員。

#### 【中村委員】

私は正直、悩んでおります。帝国書院と教育出版で。といいますのは、歴史は今、高橋委員がおっしゃったように、流れをつかむということがすごく大事だと思います。日本の中の流れだけでなく、世界とのつながりで、日本がこういうとき世界はどうなっていたのだろうということを把握できるということがすごく大事だと思っておりまして、その点、私は、帝国書院は分かりやすいのではないかと思ったんですけども、「まとめ」のところでは教育出版のほうが分かりやすく、実際に先生方が教えるときはどっちがいいのかなというところで悩んでおります。でも、どちらもいい教科書だと思っております。

**【小田嶋教育長】**

やはり、帝国書院と教育出版で悩んでいるというところですね。2つ挙げていただいているということでもいいのかなと思います。

岡田委員はいかがですか。

**【岡田教育長職務代理者】**

先ほど来から申し上げています、学習指導要領解説の第1章の総説のところ、「歴史的分野」に関して、例えば、「ア 歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視」ということが示されておりまして、そして、その中に今回の改定では中項目ごとにこれらを示して、「まとめ」として学習を行うことを一層明確にしたものである、というような視点が示されております。

それから、先ほど中村委員がおっしゃったように、「我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実」ということが示されております。

また、この各社の特徴が非常によく出ているのが、この歴史の教科書だなというふうに思いました。それから、教科書展示会の中で寄せられましたアンケートを、委員の皆様方全員同じなんです、読ませていただきまして、そこの中でも様々な御意見を頂いているということがございました。

そして、私は今、各委員がお話くださっていた中で、やはり教育出版がいいというふうに思いました。例でいきますとですね、例えば、274ページ、275ページのところなんですけども、そこを開いていただきますと、「移り変わる戦後の街を訪ねて」ということで、「未来に向かって歩み続ける川崎市」ということで、事例地として川崎のことが取り上げられておりまして、「ひかりさんの班」が現在の形の地図等を見ながら、それをどういうふうに捉えていくかというのが、すごくよく示されていて、そしてさらに「ひでおさんの班」の例とかというふうに示されています。これは、とても分かりやすく、「かわさき教育プラン」にも合致しておりまして、とてもいいなというふうに思いました。

それから、最初のところで教育長がおっしゃられた川崎市のこれまでの学びの流れというんでしょうかね、そのときの社会的な事象がバランスよく配置されているのが、私はこの教育出版ではないかなというふうに感じています。そういったようなところを踏まえて、私は教育出版がいいというふうに思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

事例地としての川崎の例が2ページにわたって大きく掲載されているということ、あとバランス等も踏まえて教育出版ということでした。

ほかの委員の方はいかがでしょうか。

岩切委員。

**【岩切委員】**

先ほど来、社会が苦手というふうに申し上げているんですが、どの教科書もやはり見開き2ページで1単位ということで、非常に見やすく、子どもたちが学びやすいような工夫が凝らされているな、というふうに思いました。1社を除いてなんです、ほとんどキャラクターを使った課

題であるとか問いかけ、投げかけをしてあって、子どもたちが親しみやすいような工夫がなされていきました。「川崎の子どもが学習を進めていく上での視点」という中で、「歴史の大きな流れを理解」という意味で、歴史がどういうふうに動いていったか、それから世界の中でどういうふうに動いていったかということをいろいろと皆さん工夫されておりました。

資料3の「全ての教科用図書に関する調査研究報告(⑥)」の7、8、9ページのところにもまとめられているところあるんですけども、ほぼ時代の流れを把握しやすいように年表スケール掲載とか、あるいは、私が注目したのは日本と世界の年表の掲載というところなんですけど、多くのところで採用はしていたんですけど、「日本の動き」「世界の動き」というふうに書かれていたのが教育出版、これはまとめのほうで書かれています。それから、山川出版社が冒頭のところで「日本史」「世界史」という年表を書いてありまして、日本がいろんな事件が起こったり、あるいはいろんな出来事があったときに、世界では何が起こっていたかというのが非常に把握しやすくなっていて、大きな流れを視覚的にも分かりやすいという意味では、私は教育出版か山川を勧めたいというふうに思っています。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

世界との関係、そして歴史の大きな流れが見やすいかという観点から山川も挙げていただいて、今、共通しているのは教育出版ですが、あと帝国と山川が今挙がっているところですが、石井委員はいかがでしょうか。

#### 【石井委員】

皆さん、それぞれの立場から非常に網羅的に話をされてありまして、僕は最初の導入で小学校の学習内容との関連づけを見たんですけども、教育出版では2ページ、3ページで、「歴史すざろくにチャレンジしよう」といって、小学校での学習の振り返りを始めてありまして、クイズ形式で年表をつくることで歴史の流れが捉えられるということで、非常に小学校からの導入ということでは、すごく工夫しているのではないかと思います。時代の分け方であるとか、年表の見方を振り返ろうということで、歴史にさっと入っていける、そういう気がします。

それから、東京書籍でも「歴史へのとびら」としてイラスト、歴史上の人物を示して歴史の流れを確認する。帝国書院も同様にイラストの人物をたどりながら流れを確認していますが、教育出版には面白さと親しみやすさがよりあるのかと感じました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

歴史の学習への導入というところでの工夫ということで教育出版を挙げていただいています。

私も教育出版と帝国書院が、非常によくまとまっているなど、工夫されているな、というふうに感じていました。先ほど申し上げました「歴史的な見方・考え方」の部分では、教育出版は「歴史にアプローチ～歴史の見方・考え方と学習の進め方」として、小学校での学習のつながり、あとポイントを1～5として、大変分かりやすく示しているというのがありまして、帝国のほうも冒頭で「歴史的な見方・考え方を働かせよう」として、「はじめに～さまざまな立場や多様性を踏まえた未来のために～」ということで、歴史の全体像を見渡したり、小学校との関係、地理、公

民とのつながりなんかも示しています。

「まとめ」でも、帝国は「歴史的な見方・考え方を働かせて説明しよう」、これをステップ1～3というふうに取り組むという形で、非常に「見方・考え方」をうまく示しているなというふうに思いました。

結論的には、私も教育出版を挙げたいとは思いますが、先ほどから出ています、日本と世界の動きの年表の分かりやすさですとか、あと時代のつながりということで、教育出版は、「まとめ」の最後のところで「時代の変化に注目しよう！」というコーナーが必ず入っていて、それが次の時代への橋渡しになっている。こういったつくりというのは非常に効果的であるな、というふうに思いました。

総合的に考えまして、私も教育出版、帝国を挙げたいと思っていますが、皆さんから共通的に挙がっているのは教育出版ということで、歴史につきましては教育出版を採択していく方向でよろしいでしょうか。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

さっきの説明で言い忘れたことがあって、教育出版が駄目ということではなくて、補足で、まとめ活動がいろいろあるというところで評価して教育出版ということをしたと思うんですけど、東京書籍もまとめ活動はすごく充実はしていて、そこも非常にいいなと思った反面、説明が非常に丁寧で、もうほぼ完成された見本が載っていたり、かなりキャラクターがたくさん吹き出しでお話をしているんですけど、ちょっとその辺りが勉強している生徒たちが引っ張られちゃうのかなというところで、書かれ過ぎちゃっているかなというところで、バラエティに富んでいるというところではすごく評価はしたんですけど、その辺りでちょっと比較したときに教育出版のほう書かれ過ぎていないし、いろんな活動が載っているというところで教育出版を評価したというところを、ちょっと補足させてください。

#### 【小田嶋教育長】

理由を補足していただきました。丁寧に書かれている部分と、書かれ過ぎているというのは、小学校のときもそうでしたけど、各教科で評価の分かれるところ、あとキャラクターについても各教科書、うまく活用というか、出してもらっているんですが、やっぱりキャラクターがしゃべり過ぎちゃっているというのも課題として小学校のときも、また今回中学校でもあるかなと思います。これからの、この後も、また視点として出てくるかなと思います。

では、歴史については、教育出版を採択したいと思います。

#### 【各委員】

<可決>

### ⑤社会（公民的分野）

#### 【小田嶋教育長】

続きまして、公民に移ります。

公民につきまして、御意見をお願いいたします。

岡田委員。

#### 【岡田教育長職務代理者】

公民に関しても、学習指導要領解説の総説のところ、「現代社会を捉える枠組みを養う学習の一層の充実」、それから「現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の充実」、「社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察、構想したりする学習の重視」、それから「国家間の相互の主権の尊重と協力、国家主権、国連における持続可能な開発のための取組に関する学習の重視」ということが示されております。そこを視点にして、各社本当に工夫されていてですね、先ほど来からお話ししているような「知識・技能」、「思考・判断・表現」、それから「主体的に学習に取り組む態度」とか、「主体的・対話的で深い学び」に関わる構成ということ、本当に工夫されているなというふうに思います。そういったところと、先ほど来から申し上げている「かわさき教育プラン」を具現化しようとしたとき、どの教科書が一番いいのかなという、そのような視点で読ませていただきました。

まずはじめに、「主体的・対話的で深い学び」に関わる構成のところでは、教育出版のものなんですけれども、章の導入のところ「学習の見通し」が掲載されておりまして、章全体のテーマが示されていて、そして節ごとのテーマも示されていて、それがさらに章末には節のテーマを踏まえた振り返りの問いと、章全体のテーマの解決を培う活動が示されております。これは、教えやすさというところにもつながるのではないかなというふうに思いましたし、それをさらに実は各単元のまとめの仕方について、東京書籍、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、それぞれのところでいろいろな工夫をされているんですが、実は教育出版がピラミッドランキング、ジグソー法、マトリックス、それからフィッシュボーンというような形で、どういうふうにまとめていって、どういうふうに捉えたらいいかという論理的に物を考えていったりするときの用例が一番多く示されていたのが教育出版だというふうに思います。

それから、もう一つ。先ほど来申し上げている、「かわさき教育プラン」の視点に立ったときですね、教育出版は、例えば、47ページに公務員の国籍条項に関する川崎のものが示されております。それから、在日韓国・朝鮮の伝統芸能ということで49ページにもそれが示されております。それから、「外国人市民代表者会議」に関するものが121ページに示されております。同じく、「市民オンブズマン」に関するものが122ページに示されておりまして、共生社会に関する多文化共生の視点でも、この「かわさき教育プラン」の視点に立ったとき、私は教育出版がいいというふうに考えます。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございました。

いろいろな点から教育出版を推していただきました。

中村委員。

#### 【中村委員】

どれも丁寧につくられておりまして、私は東書、教出、帝国でとても悩みましたけれども、

最終的には教出がよいと思いました。その理由は主に3つあります。

1つ目は、今、岡田委員がおっしゃったように構成の面で、生徒がポイントを抑えやすいと思いました。

2つ目は、「識字」のこととか「LGBT」についても載っており、人権意識が高いと思いました。男女共同参画については、女性の国会議員の比率について世界と比較して示したグラフが載っており、内閣の写真などから具体的に考えられるようになっていたと思いました。

3つ目は、「現代社会の見方・考え方」という新学習指導要領のポイントについて深められるのではないかと思ったということです。具体的にいうと、例えば、核を例に考えますと、核兵器禁止条約と日本の状況、核のゴミなどについても記載されているということです。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

教育出版と東書を挙げていただきつつ、3つの視点から教育出版ということでもよろしいですか。

**【中村委員】**

悩んだのは3社で、東書、教出、帝国でした。最終的には、教出で。

**【小田嶋教育長】**

東書、教出、帝国で悩んで、最終的には教出と。

ほかにはいかがでしょうか。

高橋委員。

**【高橋委員】**

私は、東京書籍と教育出版で迷いました。教育出版と東京書籍なんですけれども、各社いろいろな形で各章の導入をすごく工夫をされていて、いろんな活動をしてから本編に入っていくというような構成をされているところが多かったと思うんですけれども、教育出版は「学習の見通し」というのを書かれていて、それが非常に分かりやすく書かれていて、その章の最後のまとめの活動ときちんと対応されていて、章を通して、大きな流れとして学習が対応できているところが分かりやすかったと思います。

東京書籍も、導入のページで各章の「探求課題」を設定して、それに対応するまとめ活動をするというような構成になっていて、非常に大きな流れとしていいなというふうに思いました。

あと教育出版は、最後の「国際社会に生きる私たち」というところの章が、一番私としては充実して書かれていたなと思っておりまして、いろいろな今、国際的に問題になっていること、例えば、地域紛争ですとか、そういうSDGsにも関連するような項目が少し、節とかもちょっと多いですし、しっかり分かりやすく書かれていたな、と思うのと、「国際社会における日本」というところで、比較の話とか、あとは国際貢献もNGOを含めた多様な形でのものが記載されているのも非常にいいなというふうに思いました。

現行の教育出版がいいなというふうに思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。  
石井委員はいかがでしょう。

**【石井委員】**

僕も結論は教育出版なんですが、教育出版のいろいろな点については、それぞれお話をされていますが、僕は「学習コラム」ですね、興味や関心を広げる「学習コラム」、あるいは「特設ページ」というところにも注目しまして、中身が充実しているなと思いましたのと、中学生の身近な問題を数多く取り上げて、考えやすい題材だと感じました。例えば、「公民の技」では、「お小遣いの使いみちランキングを考えよう」とか、「高校生のCEO」であるとか、「中学生の人権と裁判」、「じゃんけんは公平か」等、身近な題材を取り上げている。それから、やはり事例地として川崎市が多く取り上げられていて、まさに川崎市の特色が出ている教科書だと思いましたので、この点からも教育出版がいいと思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。  
共通して出ているのは教育出版ということで、岩切委員はいかがでしょう。

**【岩切委員】**

資料3の「(5)」のほうですね、こちらのほうにも書かれているんですけども、「単元のまとめ」等のところで「対立と合意」「効率と公正」の見方・考え方といったことが掲載されているのが東書、教出、それから帝国、日文、育鵬というふうにあります、こういったものの考え方、それから思考判断、表現につながるものというのが記載されているほうがいいかなというふうに思いました。そして、先ほど来、岡田委員、石井委員もおっしゃっていますけれども、事例地として川崎が多く取り上げられているというのは、子どもたちがもう完璧に親しみやすさを感じるだろうということで、教出がいいんじゃないかなというふうに思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。  
私も教育出版と帝国書院、先ほどの地理や歴史のときに挙げたような、やはりそれぞれの教科書のよさがあって、その2つをやっぱり迷ったというか、どちらもいいなというふうな見方をしていました。

今、皆さんがおっしゃったこと以外で特徴的なことでの差を言いますと、教育出版は「公民にアプローチ」というページで、4ページにわたってメディアリテラシーを扱っていると。ほかの教科書も扱っているんですが、それが非常に具体的で分かりやすいということですか、これも先ほどの歴史と同じように、「次章の学習へ」というコーナーで、学習のつながりを明記しているというのが特徴的で、そのほかにも事例地ですとかいろいろありましたし、先ほどから申し上げている見方・考え方というのを、「学習のはじめに」の「学習の見通し」という中で、その見方・考え方を提示して説明して、明示していると。それを振り返り、見開き2ページの「学習のまとめと表現」という活動があるんですが、そこと見方・考え方が連動していて、まとめのページでも先ほど申し上げた「次章の学習へ」という中に見方・考え方を基に考えるマークがついている。

ずっと見方・考え方で通しているというところが非常に分かりやすいなというふうに思いました。

帝国も見方・考え方の提示は、冒頭で小学校と、あるいは地理、歴史とのつながりを示す中で見方・考え方を提示して、「章の学習を振り返ろう」では、これは先ほどの地理や歴史も同じなんです。が、「見方・考え方を働かせて考えよう」という問いかけで、ステップ1～3、そういったステップで考えさせるということ。あと「アクティブ公民」というところで、やはりこれも見方・考え方を働かせて具体的に考えさせている。そういった部分で、教出、帝国、ともに非常によくできているなというふうに考えました。あと、例えば人権的な部分では、帝国書院は中学生の人権作文を例に挙げているところもすごく、川崎の中学生は、どの中学生も、人権作文は大体取り組んでいると思いますので、そういったつながりなんかでも、ものを深く考えられるのではないかなというふうに思いました。

トータルでいいまして、私も教育出版を挙げさせていただきまして、皆さん共通に挙げていただきました教育出版を、公民は採択していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<可決>

#### 【小田嶋教育長】

では、そういうふうに決定したいと思います。

### ⑥地図

#### 【小田嶋教育長】

続きまして、地図に移ります。

では、社会科は地図で最後になりますが、地図についての御意見をお願いします。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

地図は2社ですが、それぞれよさがあるなというふうに思いました。帝国書院は、やはり地図自体の大きさもありますし、地図自体の見やすさが非常にやっぱりすばらしいなというふうに思いました。

また、川崎市全体が関東のほうの地図で載っていて、二ヶ領用水ですとか川崎市に関係あるようなところも載っているので、そういう身近に感じられるというところでも、やっぱり帝国書院はいいなというふうに思いました。

東京書籍は、巻頭に世界全体の統計の資料のところ非常にSDGsを意識したのかなというような形のくりや、統計資料の載せ方になっていて、そこがすごく充実していたので、いろいろなほかの教科も含めて、SDGsを考えるときに非常に役に立つんじゃないかなというふうに思いました。ただ、地図帳ですので、やはり地図が見やすいということが一番大事なかなというふうに思いますので、現行の帝国書院でよろしいかと思えます。



**【小田嶋教育長】**

帝国書院を挙げていただきました。ほかにはいかがでしょう。

岡田委員。

**【岡田教育長職務代理者】**

まず2社なんですけれども、A B判かA 4判かということで、帝国書院がA 4判を採用しております。大きくて見やすくいいなと思うと同時に、様々な教科書が厚みを増してしまっていて、さらにこの大きさで、どうかな、というふうには思いましたけれども、やはり先ほど高橋委員がおっしゃったように、日本の地図のところ川崎市が載っておりまして、さらに、防災とか、そういったような視点で二ヶ領用水を載せているというのが、やはり「かわさき教育プラン」の視点に立っているなというふうに思いました。それから、両方とも50万分の1の地図が示されているんですが、帝国書院が7色で示されていて、東書が9色の色分けがされていました。私は帝国の7色のほうが見やすいな、というふうに思いました。それから、地図帳の凡例とか縮尺、索引の使い方というようなところを、小学校の学習を踏まえて地図の構成が示されていて、そしてさらに地図帳の活用方法についてのページも設けられている。それから、「地図活用」コーナー、例えば、25ページとかに示されているんですが、そういったもの。それから、5ページから8ページのところで示されている。また、世界各種の特色を大きく鳥瞰図で示してしまっていて、これも各州がしっかり示されていて、これもいいな、というふうに思いました。

あともう一つ、歴史的な視点に立って本州の中央部と五街道を、これは107ページ、108ページなんですけど、そこで示していたのもいいなというふうに思っていて、私は高橋委員と同じで帝国書院がいいというふうに思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

ほかの委員の方、いかがでしょうか。

石井委員、お願いします。

**【石井委員】**

私も帝国書院のほうがいいと思うんですが、1点というか、SDGsに関連しては、東京書籍もエネルギー問題とか人口問題、紛争、難民といった社会問題の特設ページで取り上げてしまっていて、そこで日本の国際貢献としてラオスの水質支援、日本人技師であるとか、バングラデシュの小学校の教育活動をする協力隊員であるとか、難民問題に取り組んだ緒方貞子さんとかですね、こういったところが取り上げられているというのは東京書籍がいいと思いましたが、全体的に見ると、地図の大きさですとか、いろいろな形から帝国書院のほうがよくないかなど。各州のページの下にいろいろな国の国旗が載っていたりですね、それが統一されて見やすいなど、鳥瞰図もそうですし、全体としては帝国書院ですが、東京書籍のほうも、この点はよかったですと思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

中村委員、お願いします。

**【中村委員】**

私も地図の見やすさとか、鳥瞰図の面白さという点で、やはり帝国書院がいいと思っています。

あと、私は最初気がつかなかったのですが、アンケートに書かれていて「なるほど」と思ったことがあります。細かいことですが、日本の主な農水産物の生産というグラフが載っているのですけれども、それが色分けされていないものと、帝国書院の場合はアジア、アフリカ、ヨーロッパなどの地域ごとに色分けされていて分かりやすいということが書かれていて「なるほど」と思いました。確かに色分けされていて、こちらのほうが分かりやすいと思いましたが、もしかしたら色覚多様性の子には分かりにくい部分かもしれないので、何とも言えないのですけれど、でも確かに、そういう細かいところまで結構配慮されているのは帝国書院かなと思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

お三方、帝国書院ということで、岩切委員はいかがですか。

**【岩切委員】**

地図の見やすさという意味では、大きいだけあって見やすいなというのが思ったところではありますが、先ほど岡田委員が言われていたように、大き過ぎるという意味で少し悩んでいるところはございます。

それから、防災の話も先ほど紹介がございましたが、東京書籍のほうが151、152で「日本の自然環境（災害・環境問題）」、そして帝国書院のほうで149、150で「日本の自然災害・防災」というところで地図を掲載されているんですけど、情報量が多いのは東京書籍なんですけど、ぱっと見で分かりやすいのは帝国書院かなというふうに思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

私も帝国書院、大きさを最大限活用して、いろいろな点で見やすくなっているということですので、帝国書院を挙げたいと思います。

ということで、地図につきましては帝国書院を採択したいと思います。よろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

では、そのように決定いたします。

**⑦数学**

**【小田嶋教育長】**

数学に移りますが、ちょっと教科書の入替えをしますので、お待ちください。

それでは、数学に移りたいと思います。御意見をお願いいたします。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

数学は出版社も多くて、内容も中学生ということで、小学校と違って非常に難しくなっていて、読むのにとっても苦労しました。幾つかポイントはあると思うんですけども、各社ちょっと特徴的だなと思ったのは、どのぐらい説明をしっかりとするのかというところかなと思っていて、教科書を授業で使うということを私は選ぶまず一つポイントに置きました。そういう意味では、情報量は、今使っている現行の教育出版と、東京書籍と、啓林館が吹き出しの量ですとか、それぞれの出版社にキャラクターが出てきて、いろいろヒントみたいなものを話をしてくれるんですけども、教育出版、東京書籍、啓林館ぐらいの量がちょうどいいかなというふうに思いました。ほかのは非常に見やすい出版社もあったんですけど、吹き出しを読んでいけば、分かるとは言わないんですけど、流れがどんどん分かってしまうということで、自分で考えるというよりは参考書的なところがちょっとあって、授業で使っていくというところではちょっと難しいのかなということで、教育出版と東京書籍と啓林館を、まず考えました。

それから、次に導入についてなんですけれども、各社いろいろ導入は工夫をされていて、特に身近な例、学校生活ですとか、生徒の身近な例に引きつけて例示をするというような出版社が多かったと思うんですけど、教育出版は、各章の扉のところで、身近な例もありつつも、社会でどのように数学が使われているかというところを、非常に印象的に生徒が興味関心を持つような形で書かれていて、導入のフックとして、すごく有効だなというふうに思いました。

それから、紙面なんですけれども、教育出版は右側に青い薄い線が引かれていて、脚注ですとか振り返りの問題のところが薄い水色の右側に全部統一して書かれているんですけど、それが割とすごく見やすいなと思っていて、やっぱりいろんなヒントとか、いろんなことが結構シンプルでも情報量が多いので、どこに何が書かれているか探すというのを感覚的に分かるようにするというところでは、この青い線が引かれているのは非常にガイドとして助けになりました。

それから、次のポイントとして、じゃあ授業で使うんだけれども、でも宿題はしなければいけないし、特に感染症の関係で自主学習、家庭での学習の機会も増えるということも考えると、自分でもやっぱり勉強するときに、それなりに使える教科書じゃないといけないなと。そういうポイントも一つ見ました。そのときに教育出版は、例えば、問題の横にどこに戻って解き方を見たらいいかというようなヒントとか、それから補充問題ですとか、あとは既習事項なんかもポイントとしてちょっと書かれたりしていて、自分で勉強しているときに、あれちょっと分からないけど、これどこを見たらいいんだっけ、というところに戻ったりとかはすごくしやすいな、というふうに思って、説明がたくさん書かれていなくても自主学習をするのにはしやすいなというふうに思いました。

あともう一つ、各章に入るときに章の初めのページが右側にあることが多いんですけど、その前のページに既習事項の復習があって、必ず復習があって、小学校で習ったことですとか、前の学年で習ったことですとか、そういうものを一回復習してから入れるというところも非常によくできているなと思いました。

あともう一つ、最後のまとめのところなんですけど、各社まとめの問題が掲載されているんです

けれど、教育出版は、その章で学んだ事項が「学習のまとめ」ということで、一覧で示されていて、非常に、例えば、見直したりとかテスト前とか、自分がやったことをぱっと見直したりするときに非常にまとまっていいていいなと思いました。ほかの出版社は図形とか法則のところはまとまっていたんですけど、全ての章ではなかったもので、そういうことで現行の教育出版がいいなというふうに思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

幾つかの観点から比較していただきながら、現行の教育出版がいいということでした。

ほかの委員の方、お願いいたします。

では、中村委員。

**【中村委員】**

大変悩みました。子どもたちが一番つまづくのが連立方程式とか、証明だとか言われているのでそういうところを見比べて、あと導入の仕方とか、いろいろ見たのですが、その中で教育出版と東京書籍の2冊で本当に悩みました。実際現場の先生方はどう捉えているのかということ、私はぜひ指導主事に伺ってみたいと思ったのですが、よろしいでしょうか。特徴といますか。

**【小田嶋教育長】**

今おっしゃった連立方程式とか証明の扱いについて、教科書の活用の状況とかって、そういうことですかね。

**【中村委員】**

その連立方程式とか証明だけでなく結構ですので、全体的に教育出版と東京書籍の2冊で、特徴とか使いやすさとか、現場の状況とかを教えてくださいとありがたいと思いました。

**【小田嶋教育長】**

じゃあ、指導主事のほうから、どちらがということではなく、専門的立場から見て、それぞれ特徴を少し教えていただければと思いますけれども。

**【松本カリキュラムセンター指導主事】**

御質問があったところだけではなくてですね、子どもたちがつまづきやすいところは各社ともに工夫をされています。先ほどの社会科のほうでもお話があった、見方・考え方というところを大きく取り上げています。

今回の学習指導要領、以前から数学的な見方・考え方を大切にできています。今回の改定で、数学的な見方・考え方を働かせて、学習活動を通して子どもたちの資質、能力を育成していくようなことを目指しています。今お話があった東京書籍、教育出版のほうも数学的な見方・考え方ということで、例えば、教育出版は巻頭に「数学的な考え方」ということで、折り込みで入っております。

東京書籍のほうは、巻末のほうに各学年入っております。特に子どもたちがつまずきやすいところを手順だとか、根拠となる事柄ということで囲ったりして、かなりシステムティックに子どもたちがとっつきやすいように工夫されております。そんなような感じです。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

見方・考え方は、私も先ほどからずっとほかの教科でも言ってきた中で、数学でも前からその部分が重視されているということで、今、説明があった、私も教育出版の見方・考え方、冒頭で折り込みなんで、これを常にこういう形で出しておけるというのが非常に有効なんではないかなというふうに私は思いました。

ほかの方は。岩切委員。

**【岩切委員】**

中3の二次方程式のところと同じような問題が取り上げられていたので、各社、7社ちょっと比較させていただきました。その中で、今の見方・考え方というところで、子どもたちに本当にしっかり考えさせているのか、あるいは答えを与えてしまっているのか、というところにちょっと着目して比較させていただいたんですけれども、例えば、東書の場合には考えて、答えは次のページに載っているというようなやり方で、大日本図書は見開きで書いてあるので、勘のいい子だとちょっと答えが見えちゃうかなというところ。

それから、学校図書は、発展問題というふうに捉えているので、ちょっとほかの出版社とは取扱いが違っているんですけど、教材の中に入れてほしいなというところですね。

それから、教育出版の場合には「考えてみよう」ということで、かなりこの話し合いの時間を取っていて、時間をかけて話し合わせていて、見開きで話し合わせ、次のページになってやっと答えが出てくるというような書き方。

それから、啓林館も「話しあおう」というところが出ていまして、どんな考え方ができるかということを予測させるというやり方をしています。

それから、数研出版のほうは、中に気づいてほしいことが実は吹き出しで回答を書いてしまっているということで、ちょっと対話的というか深い学びにするには、ちょっと答えが分かってしまうかなという感じでした。

それから、日文も結果についてのグラフを示されているということで、子どもたちにちょっと負担はかかるかもしれないんですけど、考えさせるような教科書のつくりになっているな、と思われたのは、東京書籍とか、それから教育出版、それから啓林館、この3社、いいなというふうに思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

3つ、東書と教育出版、啓林館を挙げていただきました。

岡田委員。

**【岡田教育長職務代理者】**

各委員から出していただいたところに、さらに私は、やはり数学を考えたときには、そのプロセスがすごく大事だというふうに思いますので、そのプロセスをどういうふうに展開しているのかという、こういう視点でも読ませていただきました。

それから、教科用図書選定審議会の保護者分科会のところで示されている、補充問題とか発展問題をしっかり明示しているのもあってほしいとか、これは数学のところではないんですが、ノートの取り方についても、ノートをどうやって使っていったらいいのか、というような視点も、この選定審議会の中で示されているところがございます。そういった点を踏まえたとき、私は教育出版がいいというふうに思いました。

身近なところにつなげるために、例えば、現代の医療と方程式がどうつながっているかというような章の扉のところで興味関心を引くようにしておいたり、それから「Let's Try」というようなところで、対話的なものが促進できるような写真とかを取り入れながら日常的なものとの組合せの中で考えていくというようなことが示されていました。

それから、これは3年生のところですけども、「自動車を安全に停止させるには？」ということを通して、学びを深めていくような、そういう例が示されておりました。それから、1年生の段階のところですが、小学校で学習してきたことが、今のこの単元とかにどうつながっているかというところ。「学びのマップ」というのですか、266ページにそれが示されていて、小学校の学習を振り返りながら、またはそこで自分が忘れてしまっているようなことをもう一度、思い起こしながらそれをやっていくというのが、とてもいいのではないかな、というふうに思いました。先ほど申しました、保護者分科会のところで示されました、補充問題とか発展問題というのは「かわさき教育プラン」のきめ細やかな対応を図ることに関連していることでもございますので、私は教育出版がいいと思います。

#### 【小田嶋教育長】

教育出版を挙げていただきました。

石井委員はいかがですかね。

#### 【石井委員】

数学と社会のつながり方という観点では、教育出版のほうでは各章、1、2、3年とも、いろいろな数学が社会でどのように役立っているかとか、歴史とどんなふうにつながっているかというのが、写真を取り入れて、それぞれの章の入り口のところで説明されていて、こういったことが往々にして数学嫌いになってしまうところ、「数学って社会で役に立つの？」という部分を、いろいろな形で役に立っていると示している点で、一見数学と関係なさそうな部門が、実は社会のいろんな場面で生かされている例が出ていまして、これはよいことだと感じました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

ちょっと1つ、指導主事にまた質問をしたいところではあるんですけど、今回の改定で、例えば、高校から中学におりてきたような部分もあると思うんですけど、その辺の扱いは、各社もちろん扱っているとは思いますが、ちょっとその辺の説明をお願いします。

**【松本カリキュラムセンター指導主事】**

中学校だけではなくて、今回の改定で小学校、中学校、そして高等学校のほうで大きく変わっているのは「統計教育の充実」という点があります。中学校2年生の教科書を見ていただくと分かるかと思うんですが、中学校2年生の「データの活用」という領域の中で、「四分位範囲」だとか「箱ひげ図」という今までなかったものが入ってきています。こちらに関しては、各社7社ありますが、7社とも丁寧に、そして初めて学ぶところですので、分かりやすく工夫がされているような状況であります。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

「箱ひげ図」というのは私も初めて聞いたので、何なのかなと思ったんですけど、やっぱりそういうことなんですね。

高橋委員。

**【高橋委員】**

今、高校からおりてきたというお話があったんですけど、非常に教科書読んで、急に難しくなったなという印象があって、小中連携のところはどうなっているかというところを、ちょっと最後確認させてください。指導主事に。

**【小田嶋教育長】**

じゃあ、お願いします。

**【松本カリキュラムセンター指導主事】**

算数、数学のつながりで、特に数学になって、「マイナス」の概念が入ってつまづいてしまうところがございます。そういう観点で、東京書籍のほうは「0章」ということでマイナスの数字を扱わず、これも3年生から1年生に移行した「素因数分解」を「0章」で扱っています。

また教育出版のほうは、「1章」ということで、同じように「素因数分解」、「自然数」ですね、整数、自然数を扱った領域になっています。また教育出版は、これまで「1章」は「正の数、負の数」ということだったんですが、それが「2章」に変わっているような状況であります。

**【小田嶋教育長】**

高橋委員、どうぞ。

**【高橋委員】**

最初に教科書を読んで、私、正と負のところ全然、どの教科書を読んでもなかなか分からなくて、ただ指導主事がおっしゃったように教育出版と東京書籍は、最初に数字の広がりというところを説明してくれてから、その次に入っていたので、ちょっと順番として非常に分かりやすかったなというところがあったので、そこをちょっと確認させていただきました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

皆さんから幾つかの、複数の教科書会社名が挙がっていますが、共通しているのは、やはり教育出版ということで、私も先ほど言いましたように見方・考え方の見やすさということと、あと、もう何人かの方に御指摘いただいた単元の導入のところのページですとか、その前にある「～を学習する前に」というページの設定、その導入があって「L e t ' s T r y」というふうにつながる、そこが非常にいいな、有効だなと思いましたので、やはり教育出版を推したいと思っています。

結論としましては、数学につきましては教育出版を採択するということによろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

では、そのように決定いたします。

ここですね、お昼も近づいてきましたので、ここで1時間程度の休憩を取りたいと思いますが、いかがでしょうか。

**【各委員】**

<了承>

**【小田嶋教育長】**

それでは、再開は13時といたします。それまで休憩といたします。

(11時56分 休憩)

(13時00分 再開)

**【小田嶋教育長】**

それでは、会議を再開いたします。

## ⑧理科

**【小田嶋教育長】**

理科の採択に入っていきたいと思います。各委員から意見をお願いいたします。

中村委員。

**【中村委員】**

私は、現在使っている啓林館と、学図がいいと思っております。啓林館は、コラムや資料が充



実していますし、単元ごとに「学習のまとめ」があり、要点を抑えやすいですし、「力だめし」で試験対策にもなると思っています。「みんなで探Qクラブ」というのでは、身近な疑問を探求する力が培われるのではないかと期待しています。

学図については、理科を学ぶ意義や学び方が丁寧に示されていて、ポイントを端的に押さえられるようになってきているため、基礎基本を身につけられることと、仮説を立てたり、実験をしたり、考察をするという、考える時間を十分に取れるのではないかと考えております。

両社ともとてもいいとっていて、あと両社のもう一ついいこととして、QRコードですけれども、QRコードについては授業とかでは実際にどういうふうにするのか、これもぜひ指導主事にお伺いしたいのですけれども、よろしいでしょうか。

#### 【小田嶋教育長】

QRコードの活用について、今の状況と来年度から1人1台端末になるということで、また可能性は広がると思うんですけど、その辺の扱い、どう考えているかというところで、指導主事のほうですみません、お願いします。

#### 【吉田カリキュラムセンター指導主事】

1人1台端末の導入は今後になりますので、二次元コードの掲載について調査結果を基にお話しさせていただきますと、二次元コードにつきましては各社ともに掲載があります。掲載の仕方、それから内容については、それぞれ特徴が見られます。

まず二次元コードにつきましては、東京書籍、大日本図書、それから教育出版の3社は、目次のページに二次元コードを掲載しております。それから、学校図書、啓林館の2社は、該当するそれぞれのページに二次元コードを掲載しております。

主な掲載内容につきましては、東京書籍は、主に関連する他教科の内容のページ、それから現象等のシミュレーション等を掲載しております。大日本図書は、主に実験器具の使い方の動画を掲載しております。それから、学校図書は、主に各章の基礎問題、それからコラムを掲載しております。教育出版は、企業や研究所、科学館などのウェブページへのリンクを主に掲載しております。啓林館は、単元のイメージや器具の使い方、探究実験の導入などの動画の掲載のほか、確認問題、それから、「NHK for School」などのウェブページへのリンクなどが掲載されています。

#### 【小田嶋教育長】

よろしいですか、中村委員。

#### 【中村委員】

それらを授業で実際に使うとしたら、どういう感じになるのですか。

#### 【吉田カリキュラムセンター指導主事】

それぞれの各社の動画の内容ですとか、コンテンツの内容を授業の中で関連づけて扱っていくということがあると思います。

### 【小田嶋教育長】

よろしいですか。まだ具体的には、1人1台端末となっていないですが、方向性としては、今あったようなことかな、というふうに思いますけれども。

ほかにはいかがでしょうか。

岩切委員。

### 【岩切委員】

各社とも日常の関わりというところが実感できるような工夫をされていたり、それから、SDGsとの関係を説明していて、非常に分かりやすいな、というふうに思いました。

教科書の比較のために、中学2年生の化学、「物質の成り立ち」のところを例に取って、各教材の進め方を比較してみました。全ての教科書で、ホットケーキの秘密とか、ホットケーキが膨らむ理由とか、そういったところで、なぜホットケーキが膨らんでいくのか、そのときにどんな化学変化が起きているのか、ということを取っていました。

内容的には、ベーキングパウダーの中に含まれている重曹、炭酸水素ナトリウムが熱せられて泡状になって、それが膨らむ原因になっているということ突き止めていく、そういう流れになっていたんですが、プロセスについて、一つ一つきちっと書かれているかどうかというものを教科書の内容を見ながら検証していきました。

その中で、時々キャラクターがいろんな説明をしていたり、こうではないかな、というようなことを言っていたり、あるいは、これは重曹といいます、というような記載がある中で、私は啓林館の説明が一つ一つ丁寧に潰しており、8ページにわたって、そのプロセスを一つずつ潰していくというような丁寧な説明になっていて、論理性を考えられるという意味では秀逸だったというふうに思っています。

自然科学の学問というのは、やはり論理思考を学ぶいい教材になっておりますので、誰でも、そのプロセスを追っかけていって理解できるというようなつくりになっているという意味で、「かわさき教育プラン」というところで、1人も取りこぼすことなく誰でもついていけるという意味でも、私は啓林館がいいなと思いました。

それから、先ほどデジタル教材の話があったんですが、デジタル教材も拝見させていただいたところ、啓林館の場合、その動画のところと、それからあと補充問題がありまして、章末の問題とか「力だめし」とか、そういったものもあって、非常にバランスがよかったと思うので、私は現行の啓林館でいいのではないかなと思いました。

### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

ほかの委員の方はいかがでしょうか。

石井委員、お願いします。

### 【石井委員】

教科書の見やすさという観点で見まして、やはり啓林館がいいと思いました。サイズ的にはB5のワイド版で本文が真ん中に寄せてあって、サイドは少なくなっていて、何ととっても写真が大きくてきれいで、内容も細かいところまで行き届いて充実している印象を持ちました。

それから、科学コラムの「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、中村委員もおっしゃっていましたが、バラエティに富んで、コラムが数多くあって、興味深く学習しやすいなと感じました。使いやすいのではないかという印象を持ちました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

岡田委員は、いかがでしょうか。

**【岡田教育長職務代理者】**

各社とも巻頭のところに、探究の流れとか、探究の仕方とか、進め方というものが各社とも示されておりまして、例えば、疑問や課題や仮説、計画、観察、実験、思考、結論、またはそこに表現といったような形で、どのように学びを進めていったらいいのかというのが示されていて、「思考・判断・表現」といったところの最初の足がかりとして、とても工夫して示されているなというふうに思いました。

それから、各社キャラクターを使ったりして、いろいろヒントになることを出してくださっているんですけども、結論が見えてきてしまうのは、ちょっとどうかなというところもありました。

数学のところでも、私は少し申し上げたんですけども、実はプロセスをどう大事にしているのか。特に数学や科学といったところでは、これも必要なのではないかと考えたときに、啓林館の「探Qシート」が私はすごくいいな、というふうに思っていて、それは思考のプロセスというか、探究のプロセスというか、それが「探究の流れと探究の振り返り」といったところを踏まえて、それが出てくるものが、巻末になんですけども示されていて、書き込み式でそれができるようになっていて、これがいいな、というふうに思いました。

それから、QRコードに関しては各社とも工夫されていますけれども、啓林館は、実験器具の使い方とか、そのシミュレーションであったりだとか、そういったものも上手にまとめて示されているのではないかなというふうに思います。

ということで、私は啓林館がいいというふうに考えます。

**【小田嶋教育長】**

高橋委員、お願いします。

**【高橋委員】**

私も結論から言うと、現行の啓林館でいいのかなというふうに思っております。

先ほども少し話題に出たと思うんですけど、教科書を読んでいくと補助的な意味で吹き出しが、各社いろいろ工夫して書かれていると思うんですけども、教育出版と大日本図書と学校図書は比較的多めで、私は、もう少し割と結論っぽいところに近いようなことが書いてあるところとか仮説のところ、割と具体例が書いてあるところが多かったかなと思って、少し分量としては多いかなと思いました。

東京書籍は、逆にそういう吹き出しみたいなのがすごく少なく、それはそれでいいのかなと思ったんですけど、啓林館はポイント、ポイントで言い過ぎず、ポイント、ポイントで大事な

ことを言っているというところで、その補助的なそういうコメントがちょうどいいのかな、というふうに思いました。

それから、理科は実験をするので、細かいところですけど、安全性のところというのは大事なかな、というふうに思っていて、学校図書は、基本操作の説明とか実験の中で「ストップ！！」という項目があって注意喚起をしているんですけど、ほかの4社は巻末ですとか途中で、安全に関する記述がまとめて記載されていて、目次にそういうのが載っているところもあったりして、非常にいいな、というふうに思いました。なので、啓林館でいいのかな、というふうに思っております。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

私から一つ指導主事に質問したいんですけど、私も結論的には啓林館、現行のでもいいと思っておりますが、現行には「マイノート」というのが入っていて、今回は廃止になっていますよね。それで、別冊になっている教科書って、この理科に限らずほかにもいろいろある中で、割と今までの川崎の議論の中では、別冊はあまり肯定的には評価してなかったと思うんですが、「マイノート」が廃止になっていますが、現行の「マイノート」というのは現場での活用の状況とかというのは分かりますか。

#### 【吉田カリキュラムセンター指導主事】

現行の啓林館の教科書については、「マイノート」という別冊があるわけですが、授業と組み合わせられて使われている先生方が多いと認識しています。また、この4月からの臨時休業の中では家庭学習と、それから学校の学びをつなぐものとして使われている先生方も多いと伺っております。

今回「マイノート」のほうは形上なくなっていますが、中身的には教科書の中に入っているような形になっております。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

そうすると、今まで使って活用していた部分も、教科書の中で同じように活用していけるといふ認識でよろしいですかね。

#### 【吉田カリキュラムセンター指導主事】

そうなると思います。

#### 【小田嶋教育長】

分かりました。

あと、私もどの教科書も大変興味深く読んだ中で、今回とってもユニークといたしますか、惹かれたのが学校図書の教科書で、「理科のトリセツ」ですとか、あるいは「授業を受けるコツ」、「教科書の使い方」、そういった記載があって、非常にユニークなんですけど、とっても分かりやすかったです。あと「Can-Do List」なんていうのも理科の中であったり、ページの展開構成も分かりやすかったりで、とってもいい面もあったんですが、先ほどお話があった、キャラク

ターが話し過ぎているな、という面で、いろいろな答えとか考え方を示し過ぎちゃっているな、という面がちょっと弱いかなというふうに私も感じていまして、結果的には啓林館がいいというふうに感じました。

ということで、理科につきましては、総合しますと啓林館を採択していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

では、そのように決定いたします。

**⑨音楽（一般）**

**⑩音楽（器楽合奏）**

**【小田嶋教育長】**

続いて、音楽に入ります。

音楽は「一般」と「器楽合奏」と2種類あるわけですが、考え方も共通する部分もあるかなとは思っているので、できたら一緒に考えていけたらいいかなとは思っていますが、その点について、指導主事から、この教科書両方を併せて考えていくということで、方向性について、お考えを聞かせてください。

**【伊藤（由）カリキュラムセンター指導主事】**

音楽科ですが、学習指導要領において、指導事項は「表現」と「鑑賞」の2つの領域に分かれております。

さらに表現領域は、「歌唱」「器楽」「創作」の3つの分野に分かれておりまして、「器楽合奏」の教科書は主に「器楽」の分野、「一般」の教科書については主に「歌唱」「創作」「鑑賞」の分野で構成されていますが、実際に学校現場においては、例えば、お箏を使って「創作」の学習活動を行うなど、領域や分野を関連させて学習を進めていくということが効果的であるということから、1時間の中で「器楽合奏」と「一般」の教科書を関連させながら使用しているという状況が見られます。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

そうしますと、採択についても併せて一緒に考えていくという形で大丈夫ということによろしいですか。

**【伊藤（由）カリキュラムセンター指導主事】**

現状、学校現場の状況を考えますと、同じ出版社の2つの教科書をもって一つの時間でやられ

ているという現状がありますので。

**【小田嶋教育長】**

分かりました。

では、今、指導主事からも説明がありましたが、「一般」と「器楽合奏」の教科書を併せて審議して採択していくという形でよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<了承>

**【小田嶋教育長】**

では、そういう形で、また御意見も伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

中村委員。

**【中村委員】**

私は、今使っている教育芸術社がいいと思いました。音楽については、なぜいいかという理由はいろいろあるのですけれども、学習指導要領解説でも示されている「音楽表現」と「音楽文化」という2点についてだけ申し上げたいと思います。

「音楽表現」については、指揮のところで2社の違いが分かりやすいと思いました。教育出版は、指揮をするところではメトロノームを使って4分音符を88の速度で4拍子を振ってみようと、こういう感じです。でも教育芸術社のほうは、ベートーヴェンの「5番」の「運命」を聞きながら、感じたように「指揮をしてみよう！」とあり、その後でリズム、旋律、強弱、構成などを手がかりに振り方を考えていこう、というふうになっています。

つまり、指揮法というよりも、音楽を指揮で表現するということを感じた上で考える内容になっており、実際に子どもたちにさせてみると、「ジャジャジャジャーン」と表現をしたりする子がいたりとか、あと繊細な部分に関しては、先生方がおっしゃっていたのですけれども、例えば「ティッシュをつかむようだ」という表現をしたりとか、そういう音楽の感覚から言葉を発していくことができるのが、教育芸術社のほうだと思いました。

また、「音楽文化」という点についてですけれども、教育出版のほうは、ブルース、ゴスペルなどが黒人、フォークやロックなどが白人で分けて書かれてありますが、教育芸術社のほうは、それぞれの音楽のつながりが見えるようになっています。「かわさき教育プラン」では多文化共生とかを大事にしているものですから、黒人と白人というふうに、バサッと分けるのではなく、そのつながりが見えるような書き方をしているという点でもいいのではないかと思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

ほかの委員の方はいかがでしょうか。

高橋委員、お願いします。

**【高橋委員】**

それぞれの教科書会社の創作活動について、まず見てみました。

教育芸術社のほうが、創作活動としては生徒さんが入りやすい題材が多いかなというふうに思いました。また、教科書自体の説明も、教育芸術社のほうが活動のステップとか、そういうところも分かりやすく書かれているなというふうに感じました。

それから、創作以外のいろいろな活動についてなんですけれど、教育芸術社は、「深めよう！音楽」というところがありまして、そこでいろいろな活動をされているんですけれども、教育出版のほうも、「いろいろ話し合ひましょう」というようなところで、話し合った内容をフリーで書き込むような箇所はすごく多くあったんですけれど、少し単一的というか、ワンパターンだなというふうに感じました。

また、教育芸術社の「深めよう！音楽」も、創作のほうも、1年生と2年生のほうだと、例えば「My Me l o d y」だったら音のつながり方とか音素材の特徴と構成というのが、学年ごとにつながりがあって、発展性とか広がりがあるのかな、というふうに感じました。

それから、「器楽合奏」の本についてなんですけれども、川崎は箏を実習で使う学校が多いというふうに聞いていまして、教育芸術社のほうが箏については記述が詳しくて分かりやすかったかなと思いました。

あと細かいことなんですけれど、リコーダーはアルトリコーダーが、メインでどちらも説明はされているんですけれど、川崎の学校は小学校で使ったソプラノのリコーダーをそのまま使う学校もあると聞いているので、そうすると、教育芸術社のほうが少しソプラノのリコーダーが使える曲が多いのかな、というふうに思いました。

ということで、現行の教育芸術社のままでよろしいかなと思います。

#### 【小田嶋教育長】

ほかの委員の方はいかがでしょう。

岩切委員、お願いします。

#### 【岩切委員】

お二方のお話がありましたので、違う観点のところだけお話ししたいと思います。

それぞれ1年生のほうの教科書に鑑賞というところで「魔王」が掲載されておりました。教育出版で46、47ページ、それから教育芸術社で48、49ページに楽譜とともに掲載がありました。実は教育出版のほうは、その前のページ、44、45に写真というか絵が載っておりまして、イメージが湧きやすいな、というふうに思って拝見していたんですが、イメージが湧きやすくなって思った一方、これって、もしかしたら曲を聴く前に印象をつくり上げてしまう可能性があるかな、という観点になったときに、教育芸術社のほうが音楽そのものでいろんな発想を考えるという意味で、「川崎の子どもが学習を進めていく上での視点」というところで、「感性を働かせ、音楽を愛好する心情を育てることができる」という意味で、音楽だけにフォーカスすることができるのではないかというふうに思いました。

それから、もう少し細かいところを見ていきますと、教育出版のほうは、その記載の中に「独唱（一人で歌うこと）とピアノ伴奏による表現から聴き取ってみましょう」とありまして、教芸のほうは、「語り手、父、子、魔王の旋律の雰囲気や歌い方の違いに注目しながら聴きましょう」というふうにありました。それぞれ違いを聴き分けようというふうに言っているんですが、

教育出版のほうは、先にこれ1人の人が歌って、歌い分けているんだということを実は示されており、教芸のほうは、みんな違う歌い方をしているんだけど、後で、もしかしたらこれは1人の人が歌い分けているんだ、ということが分かるような形になっていまして、音楽だけでいろんなことを考えさせるという意味では教芸のほうがいいかな、というふうに思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

3人の委員から教育芸術社ということで出ていますが、岡田委員はいかがですか。

**【岡田教育長職務代理者】**

これまで出してくださったところ以外のところをお話ししたいというふうに思います。

私も結論から先に言いますと、教育芸術社がいいというふうに思います。それは、先ほど高橋委員がおっしゃった「My Me l o d y」なんです、その器楽のところなんです、これが「虫づくし」とか「姫松」を題材にして、それから『六段の調』から“四段”というところに来て、そして、「さくらさくら」に入っていくんですが、「My Me l o d y」のところでは、実際に音を確認しながら学習を進めていくという手法でありまして、やはり音を確認しながらやっていくというのはとても大切で、これはすごくいいな、というふうに思いました。それは、さらに言うと、教材ごとに音楽的な見方や考え方を働かせる視点が教育芸術社にはありますので、そういった観点から、教育芸術社がいいというふうに思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

石井委員は、いかがですか。

**【石井委員】**

僕も2点の理由から、教育芸術社がいいのではないかなと思います。

1点目は歌唱や創作ですけれども、個性を大切にしている、まず生徒の自主性に任せて、いろいろな歌い方であるとか鑑賞の仕方というのを重要視しているのが教育芸術社だと思いました。各教材にもヒントがありますけれども、「味わいながら歌おう」とか「合唱しよう」とか、「言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう」、まずさせてみよう、してみようという、そういう自由度があるというのが1点目でいいと思いました。

それから、多様性を尊重する社会の担い手を育む教育に関連して、音楽というのは世界の共通語じゃないかなと思っていますが、教育芸術社のほうでは、1年生の教科書の冒頭で、「音楽ってなんだろう？～世界をつなぐもの～」にいろいろな国の演奏、この場面が、写真がたくさん載っていて、国や文化によって音楽も様々に異なっている、そういったところを味わおう、理解しようという、まさに川崎市が行っている多文化共生であるとか国際理解にぴったりの取り入れ方ではないか、というふうな2点から、教育芸術社がいいと思いました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。



皆さんから、いろいろな視点から教育芸術社を推していただきましたので、私から1点だけ触れて、私のほうも教育芸術社を挙げたいと思いますが、学習の見通しという意味で、教科書冒頭に、教育芸術社のほうは年間の学習内容が観点別等の視点、「歌唱」「創作」「鑑賞」という視点と、あと共通事項を明確に示しながら分かりやすく示されていて、それと、それぞれの教材で何を学習するのかが、その示しているものと関連づけて、非常に連動して分かりやすく示されている、そういう点も評価できるということで、教育芸術社を推したいと思います。

結論としましては、音楽につきましては、「一般」「器楽合奏」とともに教育芸術社を採択するというところでよろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<可決>

#### 【小田嶋教育長】

では、そのように決定いたします。

### ・⑪美術

#### 【小田嶋教育長】

続きまして、美術に入ります。

では、各委員から意見をお願いいたします。

岡田委員、お願いします。

#### 【岡田教育長職務代理者】

美術に関してでございますけれども、とても色彩とか色合いとか、各社工夫してまして、とても写真とかもすばらしい出来になっているな、というふうに思いました。

そんな中で、造形的な見方・考え方というところで、その造形的な視点についてなんですけれども、日本文教出版のものは造形的な視点を全ての教材に掲載していらっしゃいました。それから、今のは「知識・技能」に関するところなんです、「思考・判断・表現」のところでは、作者の言葉であったり、アイデアスケッチというようなもの、それから手順というようなものも示されていました。そして、私、「あっ、これは」というふうに思いましたのが、実際の版画を取り上げているところだったんですけども、版画の中で特に北斎の「富嶽三十六景」が原寸大で取り上げられていて、実はそこに示されている色合いが当時のものに非常に近づけている。つまり、当時のものに一番近づけた原寸大のものが掲示されている。「2・3上」の28ページ、29ページのところでございますけれども、その点が、「うーん」というふうに思いました。すばらしいな、というふうに思いました。

それから、「かわさき教育プラン」の視点に立ったときに、これも「2・3下」のところの14、15ページのところに示されているんですが、「等々力競技場」の壁画だったと思うんですが、それが示されておりまして、これも「かわさき教育プラン」の視点からすると、とてもいいな、というふうに思っていて、開隆堂、それから光村等を踏まえた上でも、日本文教出版がいいなと

いうふうに思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。ほかにはいかがですか。

私のほうから指導主事に一つ質問したいのですが、光村図書出版の教科書でちょっと特徴的だったのが、「表現 みんなの工夫」ということで、生徒の制作過程を紹介しているページというのが、今回入っているかなというふうに思います。非常に参考になるなと思う部分と、またこれに引っ張られちゃうのかな、というふうな、多分両方の意見はあると思うんですけど、生徒にとって、また指導者にとって、このページというのは、どんなふうに考えたらよろしいでしょうか。

**【長澤カリキュラムセンター指導主事】**

つくり方というんでしょうか、発想しながら構想して、そして創造的な技能を発揮しながら制作していくということ、一つの例であるということは確かだと思います。あとは、それを指導していく教師のほうで、どのような取扱いをするかということになりますので、そこは現場の先生にかなり委ねられるところがあるかと思います。

また、子どもたちの目線にたって見ると、恐らくある程度美術に関して興味関心があり、発想、構想や創造的な技能の手だてを必要としないという生徒にとっては、見なくても、そういう意味では制作は進んでいく可能性があります、苦手だな、と考えている生徒にとっては、もしかすると手だてになるということが考えられます。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

使い方次第、生徒次第ということなのかなと思いますが、ユニークだな、と思いながら見て、私は割と積極的に評価したいな、と思っていたんですが。分かりました。

ほかの委員の方、御意見はいかがでしょう。岩切委員。

**【岩切委員】**

今の光村の「表現 みんなの工夫」に関してお話しをしますと、これを最初に見たときに、すごくヒントになっていいな、というふうに思ったんです。ヒントになっていいな、と思った一方で、先ほどの音楽のときもそうなんですけれども、最初にそういった印象を持ってしまうと、子どもたちはどうしてもそれに引っ張られてしまう可能性があるな、というふうに思いました、変な言い方ですけども、稚拙でも自分でつくり上げていくということを川崎の子どもには期待したいな、というところから、あえてこういったものを載せてないものを私は選びたいな、というふうに思いました。

岡田先生がお話されたように、発色が各出版社で随分違うな、というふうに思っていて、色の三属性というのが1年生の教科書にあるんですけど、そのカラーチャートを見たときにも、発色が一番きれいだなと思ったのが、やはり日文だったので、私は日文がいいのではないかと思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。日文を推しているということですね。

ほかの方はいかがですか。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

1年生の教科書についてですが、各社それぞれ見開きのページがあって、日文はびょうぶ絵。光村は金剛力士像つながりで、木工像とびょうぶ絵。開隆堂は伊藤若沖の作品の紹介となっているんですけど、日文はびょうぶ絵って、私もあまりよく分かっていなかったんですけど、びょうぶが折られることで角度がつくことで表情が違うというところまで計算されて描かれているというところで、この日文の教科書は花のびょうぶ絵を実際に折って、びょうぶの形にして、その角度で作品を楽しむというような工夫がされていて、それはすごい面白い仕掛けだな、というふうに思いました。

それから、先ほど出た浮世絵について。各社、浮世絵については取り上げられていますけれども、日文と光村は先ほどおっしゃられたように、原寸大で富士山の絵が取り上げられていて、さらにその後に、浮世絵の影響っていうところで、各社、つなげて展開をされていると思うんですけども、日文のものは、影響を受けた西洋の絵と浮世絵が並んで比較もしつつ、いろいろ鑑賞しながら比較もできるというところで、その配置がすばらしいなというふうに思いました。

以上で、そういうところから現行の日文でいいのかなというふうに考えています。

#### 【小田嶋教育長】

日文ということです。

中村委員、お願いします。

#### 【中村委員】

私も現行の日文でいいと思っています。各社、共通教材が幾つかありますので、そういうところを見比べましたところ、例えば、「ゲルニカ」です。大きく出ている教科書もありますし、「ゲルニカ」というのは戦争に関するもので、それとともに日文と開隆堂は、池田学さんの「誕生」という、大震災のときに描かれた絵が描かれていました。そういう忘れてはいけないようなことを重ねて自分の身近なことから考えられるようになっていくという点ではすごくいいなと思いました。

ただ、開隆堂のほうは「色相環」というのが、これもまた全部の教科書に載っているのですが、色覚多様性の子どもには対応していないと思いました。例えば、こういう色を見て赤というふうに見える子と見えない子がいるわけですよね。そういうときに色のところに、色だけを示すのではなくて、色と「赤」とか、色と「青」というふうに、言葉で書いてあげないと分からないものですから、そういう点ではクラスに何人かいるかもしれない色覚多様性の子どもに対応していくということでは、ちょっと問題があるのかな、と思いましたので日文にしました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

色覚多様性の子どもたちへの対応ということでの課題を述べていただきました。

皆さん日文ということで、私も、どの教科書も本当に見ていて刺激を受ける、とてもすばらしい作品等が出ていて面白かったんですけど、結論としては、私も現行の日文でいいのかなと思います。皆さんと違ったところと言うと、後ろのほうに資料で「学びを支える資料」というのが日文に出てまして、そこが非常に充実しています。1年生の「発想・構想の手立て」というページですとか、鑑賞のページなどもいろいろの視点が示されていて、非常に参考になるという点で、その点も評価しながら現行の日文ということ挙げていきたいと思います。

ということで、美術につきましては結論としまして、日本文教出版を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<可決>

#### 【小田嶋教育長】

では、そのように決定いたします。

### ・⑫保健体育

#### 【小田嶋教育長】

続きまして、保健体育に入ります。

では、石井委員からお願いします。

#### 【石井委員】

保健体育では学習したことを実生活に生かしていくこと、あるいは今日的な課題についての取扱いや自転車に関する交通事故対策などを、関心を持って教科書を拝見しました。

実生活に生かしていくという点では、学研では、まとめの部分で、「まとめる・深める」で理解したことを生活と結びつけて考えたり、話し合ったりする活動を紹介していました。

東京書籍では、まとめの部分の「広げる」で、学習したことを自分の生活に当てはめて、さらに調べたりする学習活動を示しておりまして、二次元コードから応急手当等の動画も確認できるようになっていまして、その内容も充実していると感じました。

大修館では「学習のまとめ」で、学習したことを基にしてキーワードを入れて文書を完成させる問題を掲載して、実生活でどう生かすかを考える学習活動を示していました。

大日本図書も、まとめ部分の「活用して深めよう」で実生活につながる学習課題を示している、そういう状況でした。

健康や安全に関する今日的な課題として、4社のがんの予防についての記述を見比べましたところ、具体的な危険性を減らす生活習慣として、大修館や学研では、節酒、禁煙、運動、食生活の見直し、適正体重の維持等の5つの健康習慣が掲げられておりまして、東京書籍や大日本図書は、この5つに加えて受動喫煙回避や定期健康診断や異常時の早期受診など、さらに7つ項目を足して12項目の生活習慣の改善を示しているなど、問題意識がより高いことが感じられました。

また、自転車の事故等についても、学研は中学生の交通事故の特徴、大日本図書では中学生が

加害者となった事故を取り上げて注意喚起している点、東京書籍では、事例地として川崎市内の2か所の道路写真が載っていて、事故防止の重要性も身近に感じられました。総合的に見て、東京書籍がよいのではないかと思います。

**【小田嶋教育長】**

4つの教科書のそれぞれの特徴を比較していただきながら、最終的には東京書籍ということで挙げていただきました。

ほかの委員の方。

中村委員。

**【中村委員】**

私も東京書籍がいいと思っています。学習指導要領で新しく入ってきた「がん」、「かわさき教育プラン」との関係、あと現代的課題の扱いの3点から特にそう思いました。

まず学習指導要領で新しく入ってきたがんについては、今、石井委員がおっしゃったように、それぞれの出版社が扱っているのですけれども、大腸がんの写真があって、がんのイメージがしやすいこととか、あと白血病、これはほかの社もあったのですけれども、白血病、骨肉腫、悪性リンパ腫のような、がんという名称ではないものもがんであるということとかが詳しく書かれていると思いました。

あと2番目の「かわさき教育プラン」で掲げている、「社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現する」ということに関して、最初に「支え合って生きている」という見開きのページが東書にはありまして、健康や安全は個人の努力だけでは実現できず、支え合うために自分で何ができるのかということを考えられるのはいいと思いましたし、東書は毎回「広げる」という、学習したことを自分の生活に当てはめて考えたり、さらに調べたりする学習活動につながるのいいと思いました。

3つ目の現代的な課題については、インターネットのコミュニケーションから発生するトラブルや薬物については全社のに載っているのですけれども、薬物乱用による社会的な影響については、東書が一番私にとっては分かりやすかったような気がいたしました。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

ほかの方、いかがですか。

岡田委員。

**【岡田教育長職務代理者】**

結論から申しますと、私も東書がいいというふうに思いました。

今までお二人から取り上げられてきたところ以外のところでいきますと、「構成・分量・装丁」のところ、QRコードなんですけれども、これがとてもいいな、というふうに思います。特に応急手当の動画が確認できた、「Dマーク」のところなんですけれども、ということと、それから、高等学校の学習指導要領の改訂のところ、実は精神疾患について初めて取り上げられて、それは4時間ほど必ず取り上げるように、というふうなことで、そこで初めて、ある精神疾患の病気

の4つを取り上げて、それを説明していきましょうというのがあるんですが、それを、その前段階として、どういうふうに各社が捉えて、それを示しているのかな、というのを見ました。そして、それにつながる形でストレスへの対処方法というのが、どんなふうに各社書かれているのかな、というふうに見させていただきました。

そういった中で、東京書籍のストレスへの対処方法の取り上げ方、それから章末、その章の末のところの資料の中に示されているものとか、そういったところで、例えば「インターネットによるコミュニケーションとトラブル」というような形で、それが取り上げられていたり、それから、「かわさき教育プラン」との関連でいきますと、各社取り上げてはいるんですけども、「性の多様性」というふうなところで、章末の資料の中に、こういったものが取り上げられておりますので、私は東京書籍がいいというふうに思います。

#### 【小田嶋教育長】

お三方、東京書籍ということです。特に補足等、補足といいますか、別のお考え等ございますか。

よろしいですか。

私も、今、岡田委員からもありましたように、QRコードの活用という点で、全体的に東京書籍のQRコードは非常に充実している部分があって、特に技能教科、保健体育、この後の技術・家庭というのは、改めて私も教科書を読ませていただく中で、非常に生活との結びつきが強くて、非常に重要なことがいっぱい詰まっていて、当然他の教科との関わりなんかもすごく大きくて、その辺のQRコードの他教科等の教科書も見られたりするとか、非常に動画が多数ありまして、「危険予測シミュレーション」などもあって、こういった部分では技能教科の、この後の技術や家庭科も、非常に有効なのかな、ということが一つありました。

あと、防災に関わるのところも、各教科書扱っていますが、東京書籍で「発展」の「共に生きる」というところで、今ありました心のケアと避難所というところと、あとボランティアに言及しているという、そういう視点も見えて、その辺もいいなと思ひまして、東京書籍を挙げたいと思います。

ということで、保健体育については、東京書籍を採択するというところでよろしいですか。

#### 【各委員】

<可決>

#### 【小田嶋教育長】

では、そのように決定いたします。

教科書を入れ替えます。

### ・⑬技術・家庭（技術分野）

#### 【小田嶋教育長】

お待たせいたしました。それでは、技術・家庭に入ります。

はじめに技術分野をお願いします。いかがでしょう。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

結論から言いますと、現行の東京書籍でいいかな、というふうに思っております。

まず全体としてなんですけれど、技術の教科書、小学校になかったので、初めて読んだわけなんですけれども、非常に情報量が多くて、また分野也多岐にわたっていて、ただ、かといって授業時間数は1、2年生で週1、3年生で0.5時間、2週に1時間ということで、非常に少ない、あまり多くない授業の時間の中で、たくさんの知識も教えないといけないし、実習もしていかなければいけないというところで、その辺りを非常に重視して見させていただきました。

開隆堂については、情報の技術の分野が非常に丁寧で充実しているんですけれども、逆に言うと、情報量がほかの教科書に比べてかなり多くて、割と専門的な知識とかも入っておりまして、詳しいけれども、この量を限られた授業時間内でこなし、かつ、生徒たちが自分の知識として身につけていけるのかなというところで、ちょっと不安を感じるころはありました。

それから、教育図書についてなんですけれども、教育図書については、非常に学ぶ流れがほかの2社と違ってオリジナリティーがあって、まず簡単な実習をして、それから知識を深めて、本格的な実習に入るというような章立てになっていたんですけれども、これも限られた時間の中で、非常にすばらしい構成だなと思ったんですけれども、やっぱり限られた時間の中で、この構成を生かすような授業をしていくというのが、なかなか現場の先生も難しいところがあるんじゃないかなというふうに考えました。

「技術ハンドブック」ということで、教育図書はいろいろな技術のところ、使い方ですとか、そういう方法のところは別冊にはなっていたんですけれども、別冊になっている分、薄い部分があるのかな、というところと、場所も限られている中で、別冊にするのがメリットがあるのかな、というところが、私自身はあまりメリットを感じられなかったかな、というところです。

東京書籍については、いろんな実習の説明の部分でイラストと写真をうまく使い分けていて、非常に分かりやすい説明になっていたりとか、各単元も基本的な情報を入れながらコンパクトにまとまっていて、授業がしやすいような構成になっているんじゃないかな、というふうに考えました。色使いもやさしくて見やすいかな、というふうにも思って、現行の東京書籍でいいと思います。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございました。

ほかの委員の方からお願いします。

石井委員。

#### 【石井委員】

技術も今おっしゃったように、少ない時間数でかなり盛りだくさんの学習をするということで、基本的な力を身につけるということが大切だと感じています。結論的には東京書籍がよいと思いました。

理由は、まず全体に写真が豊富で、目で見分けるように工夫されているということ。単元全

ての課題作業を体験できるわけではないので、写真を示した説明というのが基礎を理解する上でも有効かなと思いました。それから「TECH Lab (テックラボ)」がとても充実していて、材料と加工の技術の章で、差し金で線を引く場面とか、板を切断する場面、釘を打つ場面なども、大きな写真で紹介してあって、基本的な作業についても分かりやすく理解できるのではないかと思います。

それから、生物育成でも、種まきとか間引き、移植、支柱立て、基本作業が一つ一つ写真付きで丁寧に説明されていて、その流れもよく分かりやすく、またデジタルコンテンツでも、のこぎりの引き方など動画も見ることができて、左利きの紹介もしている、そういった点もよいと思いました。したがって、僕も東京書籍がよいと思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

ほかにもございますでしょうか。

岡田委員、お願いします。

**【岡田教育長職務代理者】**

今、取り上げてくださったところ以外のところで申し上げますと、私も東京書籍がいいというふうに思いました。

教育図書は、「技術ハンドブック」というような形で、別冊で入っているもの等があったりするんですけども、私がいいなというふうに思ったのは、これだけの分量と、今、皆さんが御指摘しているような、時間がないということを考えたときに、さらに教科横断的に他教科との連携という視点に立ったときに、どんなふうなものが示されているのかなというふうに見たときに、やはり東京書籍が最初の3ページのところで、「教科書の構成」のところに、他教科との連携のマークがついていたり、小学校で学習したこととのマークがついていたりして、これがとてもいいな、というふうに思いました。

それから、プログラミングに関するところが、やはり各社とも取り上げられていて、これは、これからとても大切なところだな、というふうに思っておりますけれども、その示し方の学びの仕方というのが、私は東書が一番分かりやすくいいな、というふうに感じました。それから、先ほど御指摘がありましたようにQRコードを使ったところのものとかもやはりいいな、というふうに思っていて、東書がいいというふうに思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

岩切委員。

**【岩切委員】**

皆さんおっしゃっていたこと以外でお話をしますと、私も結論的には東書を推したいと思っています。それで、こちらの資料3の52ページのところにあるんですけども、調査研究報告書にもあるように、例えばコロナの影響下で、皆さんがどういうふうに自宅でやっていくとか、あるいは生徒自身で何かをやっているかと思ったときにどうか、という観点で見ますと、東書のと



ころに書かれているところで、「生徒自身で問題解決に導くため、その流れを統一的に示し、見通しを持って取り組めるように工夫している」であるとか、あるいは「自学・自習ができるように工夫している」、これは教育図書のほうにもあるんですけども、そういった観点からも東書がいかないかなと思いました。

それから、先ほど来言っております、二次元コードのところなんですけど、動画の中で左利きの先生の事例が載っていて、これがやはり左利きのお子さんにとって非常に参考になるんだろうなということと、やはり資料として使えるようなシミュレーションが多いというところで東書がいんじゃないかなと思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

私も、QRコードにつきましては先ほど保健体育のところでも申し上げたように、この技術分野、家庭分野においても、非常に有効で充実しているのは東書かな、というふうに思いました。

あと違った点で1点だけお話しすると、ガイダンスが東書も開隆堂も充実しているんですが、今回私ずっと初めから言っています、各教科の見方・考え方というところが、東書のほうは、そのガイダンスの中で非常に分かりやすい表で示してありまして、特に技術の場合、最適化というのが大きな見方・考え方があるんですが、その最適化の具体的な例、考えさせる部分を、漫画で2ページにわたって紹介しているということで、そういった点でも、ガイダンスを比べて、開隆堂のほうも見方・考え方を2ページで示していますが、最適化の具体例ということはその中では示されていないということも含めて、東書を推したいと思います。

そういうことで、中村委員もよろしいでしょうか。

では、技術・家庭（技術分野）につきましては、東京書籍を採択ということでよろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<了承>

#### 【小田嶋教育長】

では、そのように決定いたします。

### ⑭技術・家庭（家庭分野）

#### 【小田嶋教育長】

では、続きまして家庭分野に入ります。

では、石井委員、お願いします。

#### 【石井委員】

家庭科は実際の生活に密着していますから、料理をつくることであるとか、裁縫することなどについても、難しく考えないでいろいろな体験を通じて親しみを持っていくという方向性が大切

だと思えます。また、こうした技術というのは、基本的な技術を身につけておくと本当に生活に役立ちますので、知識・技能の習得とか、その主体的に取り組む姿勢という点で教科書を見せてもらいまして、東京書籍がいいと思えます。

例えば、包丁の使い方について、2ページを割いて包丁の種類からいろいろな刻み方や右利き、左利きの使い方など、18枚の写真とイラストで説明して大変分かりやすいと。それから、今回から「蒸す」調理の学習が加わったそうですが、東京書籍では安全のポイントも含めてイラストで示して4つの実習例を掲載し分かりやすいと考えております。それから、「手縫いの基礎」では、小学校の復習をするコーナーで、35枚の写真やイラストを使って3ページで非常に分かりやすく説明している点、また、二次元コードから基礎的な技能一覧を確認できて、必要に応じて動画を確認できる点も東京書籍が分かりやすいと感じています。

主体的に学ぶという点では、各編の導入にこの編で学ぶことを掲載して、各節のはじめに目標、キーワード、「やってみよう」などと活動を積極的に促すことや、終わりに、「まとめよう」など学習を振り返る活動例を示していて、学習したことを家庭生活に生かせるよう、「生活に生かそう」で学習課題を取り上げている点も分かりやすく、家庭科が身近に感じました。全体的に見ても東京書籍がよいのではないかと思います。

#### 【小田嶋教育長】

東京書籍を挙げていただきました。

ほかの委員の方、お願いいたします。

高橋委員。

#### 【高橋委員】

私は、現行の東京書籍と教育図書で非常に迷いました。

家庭科なんですけれども、大きく「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」という3つの大きな分野に分かれているわけなんですけれども、やっぱり子どもたちに一番身近な衣食住という、小学校でもやってきた家庭科のところで、衣食住というところに関しては、やはり東京書籍が非常にいろいろな調理ですとか、いろんなものの説明なんかも分かりやすくてすばらしいな、というふうに思いました。

もう2つの家庭と幼児のお話ですとか、あと消費者の教育の話については、教育図書の説明が非常に分かりやすくていいな、というふうに思って迷っています。例えば、教育図書ですと46、47ページ、東京書籍だと228ページに、子どもの幼児の生活というような説明のページがあるんですけれども、教育図書は遊びとかご飯の時間とか昼寝の時間とか色分けしていて、それが年代別に縦に並んで書いてあるんですけれども、一目見て、その成長につれて生活のリズムが変わっていくというのがすごく感覚的にも分かるような上手な説明がされていて、ほかにも生活習慣の獲得とか、ほかにもそういう上手な説明のページがあって非常に分かりやすいな、というふうに思いました。

また、消費生活のところについても、例えば、契約という話が、契約という話は小学校のほうでやるというふうには聞いているんですけれども、やはり概念として難しいような話になっていると思うんですけど、大きなイラストで1ページの情報量を少なくして、割とゆったりとした紙面で、かつ、その文章も割と概念的な話をもう少しやさしく書いているなというところで、

非常に読みやすいなというふうに思いましたし、例えば、247ページに取消しの書面の書き方のそのものが載っていたりして、中学生が実践的に何かをやるというときに参考になるような情報もたくさん載っていて非常に分かりやすいな、と思ったんですけども、ただ、その分内容が多くなってしまふところがあるので、先ほどの技術のときにも言った週1回、3年生になると2週に1回の授業の中で、このボリュームのある情報を教え切れるのか、というところでやっぱり不安もあるので、そういう意味でちょっと東京書籍と教育図書で悩んでいるというようなところでは。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

教育図書の幼児の生活ですとか消費生活の部分での評価を頂きつつ、悩んでいるというところでは。

中村委員、お願いします。

**【中村委員】**

私も東京書籍と教育図書でちょっと悩みまして、結論としましては東京書籍のままでいいのではないかと考えております。

考える視点としましては、新しく入ってきました、お年寄りとの関わり方とか、「蒸す」とこととか、そういう新しい項目、それから多文化共生とか「かわさき教育プラン」との関係などでいろいろ考えました。

「蒸す」では、魚の「ホイル焼き」かなと思ったら「ホイル蒸し」だったので、「ホイル焼き」と「ホイル蒸し」って何が違うのだろう、と個人的には思って、ちょっと悩んだりもしましたけれども、そういうところで結論としては東京書籍ですけれども、私は指導主事にお伺いしたいなと思ったことが2点ありました。家庭科は3教科書ありまして、2社は「家族・家庭生活」から入っています。でも、現行の東京書籍のみ「私たちの食生活」というところから入っているのですけれども、私は食生活って一番身近だから入りやすいのかな、という気はしているのですけれども、実際には先生方の裁量でいろいろできるのでしょうけれども、実際にはどちらのほうが入りやすいのかなというのが1点と。

あと、アンケートにも書かれていたのですけれども、東京書籍のほうが、後ろのほうに切り取りができる「防災・減災手帳」が載っています。私もこれ、すごくいいな、と思ったのですが、実際に授業で子どもに教えたりするときにはどういうふうにするかということも教えていただきたいと思いました。

**【小田嶋教育長】**

では、2点質問がありましたので、お願いします。

**【越カリキュラムセンター指導主事】**

現在、現場の先生方は、本当にいろいろな学習内容について多くの教材研究とか指導研究のほうは進めているところなんですけれども、中でも衣食住の、特に食生活に関しては、生徒の関心も高く意欲を持って非常に取り組んでいる現状があります。そして、やはり先生方の中で、その

ような特に食生活に必要な基礎的・基本的な知識とか技能をしっかりと身につけていながら、ほかの学習を進めていくことがより学習を深めていく上でも重要だと現場の先生方は感じているところがあります。

あともう1点、「防災・減災手帳」に関してなんですけれども、家庭分野の学習は最終的にやはり家庭実践にどうつなげていくか、というところを大切にしているところがあります。住生活の授業で「災害への対策」ということを学びます。それを家庭実践につなげていくときに、現場の先生の声にもあったんですけれども、例えば、この手帳の中で家にどのようなものが置かれているといいとか、また、家族の中でどういう備えをしていったら防災・減災につながるか、という家庭の実生活につなげて活用が考えられるのではないかと、という声が上がっていました。

#### 【小田嶋教育長】

よろしいですか、質問は。

それで、東書と教育図書で迷いつつ、東書のほう。

#### 【中村委員】

迷いつつ東書のほうがいいと今の話でちょっと思いましたし、あと、東書のほうがお料理のレパートリーが多いですね。そうすると、その学校の状況とか、あと時期に合わせてお料理を選べるのかなということもありまして、東書がいいと思います。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

東書を推す声と、あと教育図書と迷っているという声がお二人から頂きましたが、東書のほうが今のところ、声としては多いかなと思いますが。

岩切委員。

#### 【岩切委員】

今、食生活という話がありましたので、豚肉のしょうが焼きのところを比べてみました。写真がありまして、あと、「調査研究報告(⑥)」の24ページのところにまとめが書かれているんですけども、どういうふうに掲載されているかと言いますと、東書のほうは「主たる実習例は見開き2ページで、手順が左から右へと流れるように示している」、それから、教育図書が「主たる実習例は見開き2ページで、手順が上から下へと流れるように示している」、そして開隆堂も「主たる実習例は見開き2ページで、手順が左から右へと流れるように示している」ということで、左右と上下、左右というような分かれ方をしています。これぱっと見なんですけれども、図が大きくて見やすかったのは東京書籍かな、というふうに思いました。

それから、もう一ついいな、と思いましたが、組合わせの料理が一緒に載っているということは、家庭で本当に実際に子どもがつくろうとしたときに、すぐにそのまま応用が利くな、というのが東京書籍でした。

それから、2点目になりますが、先ほど高齢者という話が中村先生のほうからもありましたけれども、高齢者のところ、今、核家族化が進んでいて、なかなか実習ができないような状況だったり、あるいはコロナで祖父母の方に会えないというような子どもが多い中で、特徴を示して実

施につなげていったというのが東書と教育図書でした。こういったところが、地域での避難所であるとかそういったところに応用が利くという意味では、そういったまとめ方をしているこの2社はいいんじゃないかなと思いました。

そして、東京書籍がいいな、と思ったのが、あと子ども向けのところなんですけれど、巻末のところに「子どもの視界体験眼鏡」というのがあって、小さな子どもは視界が狭いんだよ、というのを疑似体験するための眼鏡がついていて、いろんな体験ができるツールがついているという意味でも、東京書籍がいいんじゃないかな、というふうに思いました。

以上です。

#### 【小田嶋教育長】

東京書籍を推すという声でした。

私も、皆さんおっしゃったような点プラス、先ほど技術でもガイダンスのところを言いましたけど、ガイダンスのところと比較して、見方・考え方も含めて、やっぱり開隆堂と東書が充実しているな、ということ、その中でも東書のほうがより充実しているという点も踏まえて東書のほうを推したいと思いますが、岡田先生はどうでしょうか。

#### 【岡田教育長職務代理者】

教科用図書選定審議会の意見・感想の中に、保護者の分科会のところで「食品や材料の写真が多く食材の表示の仕方もとても工夫されていました」ということで、先ほど岩切委員がおっしゃったように、3社の中でやっぱり特徴的に出ているのが、この豚肉のしょうが焼きのところ、東書は見開きで出ていて、写真、各社ともきれいなんですけど、やっぱり食べ物としてのこの写真のつくり方、撮り方が本当においしそうに見えまして、川崎の生徒たちがやっぱりこの写真を見て完成形はこれなんだ、というところで進めていく、そして見開きの中で全部手順が示されているという、とても見やすくてやりやすいと、これはやっぱりいいな、というふうに思いました。

それから、先ほども取り上げられていましたが、「高齢者との関わり」というような点では東書と教育図書が高齢者との関わりについてさらに詳しく書かれているというふうに思いますけれども、東書の場合は、258ページからスタートして260ページまでのところに分けて示されている、この点もすごくいいな、というふうに思いました。これは「かわさき教育プラン」と合致しているな、というふうに思いました。

私も東京書籍がいいと思います。

#### 【小田嶋教育長】

では、結論といたしまして、技術・家庭（家庭分野）につきましては、東京書籍を採択することによってよろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<可決>

#### 【小田嶋教育長】

では、そのように決定いたします。

## ⑮英語

### 【小田嶋教育長】

続いて、英語に入ります。

英語につきましては、現行は学校図書の教科書を使っておりますが、今回は、学校図書は教科書をつくっていませんので、全く白紙の状態から、6社だと思いますが、6社から1つを選ぶという形になります。

あと、小学校で英語が教科化されて初めての中学校の教科書の採択ということで、当然、小学校とのスムーズな接続という部分ですとかが非常にポイントになってくるのかなと思いますが、そのほかの観点もいろいろあると思いますが、各委員から御発言をお願いします。

岡田委員。

### 【岡田教育長職務代理者】

今、教育長がおっしゃられましたように、小学校と中学校の接続ということを考えたとき、学習の流れというのを考えたとき、小学校で採択したものを踏まえていくというのがいいというふうに私は考えて各社を見させていただきました。そういった意味で、私は東書がいいというふうに思いました。

ただ、東書は内容が非常に豊かというか、濃いという言い方でいいかどうか分かりませんが、ということがありまして、そこを踏まえたときに、小中の流れからすると東書がいいな、というふうに思うんですが、ただ、内容のレベルという言い方でいいかどうか分かりませんが、多さであったりとか、そういったところを踏まえたときに、どうしようかな、というふうに思っているところであります。

「かわさき教育プラン」の視点に立ったとき、多文化共生というところでいくと、東書はホームステイ先での生活のトラブルを取り上げながら多様性や異文化理解を進めていくということで、こちら辺も各出版社がそれぞれ工夫されているところだというふうに思います。

ということで、その他の出版社のところもいろいろあるんですけども、私は、先ほど言いましたように、小中の流れということ踏まえたら東京書籍がいいと思いました。

### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

現行、小学校の英語の教科書が東京書籍を使っているということも含めてですね。

では、高橋委員。

### 【高橋委員】

すみません、1点質問させていただきたくて。読んで、かなり教科書によって文字数というか単語数というか、読む量にかなり差があったと思うんですけど、具体的にもし数字があれば、どの出版社がどのくらい3年間で読むかみたいなものがあれば教えてください。

【鬼頭カリキュラムセンター指導主事】

1つの目安として、本文、教科書には本文がございまして、本文と、あと読み物、読み教材ということで、その語数ということでお伝えさせていただきます。出版社によっては追加の付録のようなものがあるんですけども、それも含めての数でお聞きください。東京書籍が約1万2,500、開隆堂が7,500、三省堂が9,800、教育出版が1万2,700、光村図書が1万500、啓林館が6,900というふうになります。ちなみに、現行で今使用している教科書、学校図書は約7,000となりますので、1つの目安として御理解いただければと思います。

【高橋委員】

ありがとうございます。

【小田嶋教育長】

今のお答えを受けて、何かお考えを。

【高橋委員】

結論から言ってしまうと、私は光村図書が一番いいな、と思いました。

まず、先ほどの単語数というか、読む量についてなんですけれども、私も小中連携ということを考えて、最初、東京書籍から読み始めたんですけども、非常に内容が多いのと、特に3年生になってから読むものの量がかなり多くなることに結構びっくりして、ほかの教科書と比べてもかなりボリュームがあるな、というところがあったので、逆に啓林館とかは3年生になっても本文の量自体はあまり1、2年生と変わらないぐらいの短い会話文が、本文の最初の「Part 1」「Part 2」「Part 3」というようなところがあって、最後の「Read & Think」というところで長い読み物が出てくるんですけども、ちょっとその文章が、あんまり長いものばかり読んでいると嫌になってしまうし、短いものばかりに慣れてしまおうとなかなか読む力が見つからないな、というところで、その分量が難しいなというか、多過ぎてはいけないし、やっぱり少な過ぎてちょっと不安なところがあるな、というところでお聞きをしたところです。

私は光村が一番いいと思ったのは、分量もちょうどいいかな、と思ったところと、やっぱり内容、本文が3年間を通して主人公が成長していくというストーリーがずっと続いていくわけですけども、非常に引き込まれて、本当に読んでいてすごく楽しい文章だったんですね。それで、各単元にもテーマがあって、そのテーマに沿いつつも、いろんな登場人物のお話を絡めて上手に書いてあったので、非常に英語が嫌いなお子さんでも、次どういう展開なのかな、というところで興味をすごく引いて読んでもらえるんじゃないかなというふうに思いました。

あと、その内容についても、各社、学校の修学旅行ですとか防災訓練ですとか職業体験ですとか、学校生活のことを入れているわけですけども、特にこの光村は、来た留学生がちょっと元気がなくなって学校に来られなくなるというような章があったりして、すごくキャラクターが身近というか、確かに外国人のキャラクターでもすごく身近で同じ中学生だな、という感じがしました。

ちょっと東京書籍については、旅行とか身近な人が海外にいるというような話題が多かったんですけど、変な話、コロナで海外旅行に行く機会も減ったりとか、あと、あんまりキャラクタ

一に身近な感じがちょっとしなかったのがありました。

あと、巻末についている帯教材のところとかの資料も非常に充実していましたし、たしか東書と光村は1、2年生のワードリストがイラスト付きのものになっていたかと思うんですけども、そういったところも小中連携というところも考えて緩急をつけているな、というところで、光村がいいなと思います。

#### 【小田嶋教育長】

光村図書を挙げていただきました。

ほかに。

中村委員。

#### 【中村委員】

私も、結論から申し上げますと光村を推薦します。

小学校との接続が考えられていて、生徒があまり負担に思わずに中学校の英語に入れるのは、東書、開隆堂、光村、三省堂でした。その中から、学ぶことによって世界が広がる感じがするのは、東書、三省堂、光村で、光村は特に帯教材とか英語の仕組みとかがすごくいいと思いました。帯教材で、話すことを、簡単な会話ですけれども、何回も何回も「Let's Talk!」で話すような仕掛けがあります。そういうことを何回も繰り返すことによって話せるようになるのではないかな、英語を身近に感じていけるのかな、と思いました。

あと、話すということに関しては、「Story Retelling」というところでも、今まで学んだことを、絵に基づいて自分の言葉で話せるようになるというところが面白いのかな、力がついていくのかな、と思います。

それから、「英語のしくみ」というところでは、子どもたちが英語を勉強するときにつまづきやすい、日本語にはない時制の問題ですけれども、時制、時の表し方についてとても分かりやすくまとまっています。この書き方は、私が留学していたときに向こうの本で外国人が実際に時制を学ぶときの書き方と同じ書き方になっていました。

それから、「英語のしくみ」として、「have」「make」「take」「get」というようなちょっと安易に使う言葉の違いを具体的に書いてあり、英単語の成り立ちとか、その辺も分かりやすいです。あと、地図がどの出版社も大体載っているのですけれども、日本が一番東に書かれていて、そういうところも、外国から見ると日本はこういうところにあるんだ、というようなことを感覚的に分かるようになるというところでは光村図書が一番英語の世界を学ぶのにはいいのかな、と思いました。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

いろいろな視点から光村図書を挙げていただきました。

岩切委員はいかがですか。

#### 【岩切委員】

正直迷っています。今回のこの内容で、私たちが英語を学んだときと大きくやはり変わってい



て、私たちのときはリーディングとそれからライティングみたいところが、スピーキング、リスニングに大きく変わっているな、というのをこの全ての教材を通して感じたところです。

全ての教材で共通的なのは、会話文が非常に多くて会話中心でやっていくということと、あと、二次元コードの中でリスニングの教材なんかはかなり充実してきているというところが大きなところだな、と思いました。

本当に全部リスニングとスピーキングのほうに寄せて考えるのであれば、私も先ほどから出ているように光村が面白くていいな、と思いました。ストーリー性があるということと、子どもたちが興味を持って3年間学び続けられるということでもいいなと思う一方で、文法、文法のところが、私には少し弱く感じられるというところがあって、先生方がどうやって教えていくのかというのでかなり変わっていくんだとは思いますが、そのまとめ方、子どもがこの教科書だけを見ながらどのくらいそれをカバーができるのか、というのが正直、私はちょっと予想がつかなくて、その辺を指導主事の先生に文法的なまとめ方について一言教えていただけたらと思います。

#### 【鬼頭カリキュラムセンター指導主事】

今回の学習指導要領では、文法については、コミュニケーションを支えるものというような捉え方をしております。文法を取り出してそれだけを教えるということではなく、あくまでもコミュニケーションを支える上で必要なものということとなっております。ですので、各社ともそういうような形でまとめられているものが多いかなと思います。

#### 【小田嶋教育長】

よろしいですか。

石井委員はいかがですか。

#### 【石井委員】

僕も光村と開隆堂がいいと思っていまして、それはリテリングを取り上げているということですね。英語は実際に使ってコミュニケーションしなきゃいけないので、聞いて、話して、読んで、書いて、という、そういう活動をフル回転していかないと実力がつかないと思っています。そういう意味では、このリテリングというのは非常に有効ではないかと思います。中でも、光村では1年生から「Story Retelling」を学習して、全ての単元で帯教材として設けられています。本文中のイラストとかキーワードをヒントに、ペアにして交代しながら説明を促したり、「1分間でどれだけ説明できるかな。時間を計ってやってみよう」とか、「説明した内容を、3分間でノートに書いてみよう」とか、意欲を掻き立てる引き出しもあって、やる気が出てくるんじゃないかと思っています。

先ほどお話にありましたけども、「その場で」スピーキング Let's Talk! も間違いを恐れずにやること、それから「Questions」と「Answers」といろんなバリエーションがあり、とにかく話す、会話を長く続けるコツをマスターするには非常に有効だと思っていまして、かつて僕も、オープンカレッジに通っていたときにこのようなやり方で英語を勉強したこともありますので、会話力、リスニング、スピーキング、いろいろな面で鍛えられるんじゃないかなと思います。

帯教材の「Let's Talk!」にもそれぞれ動画がついていまして、「会話のイメージをつかもう」と出ています。それで、その会話のイメージというか、話している雰囲気とか、表情とか、動作などは、日本人が不得意とするところなんですけれども、そういったところが目で見て理解できるというのは、外国人と話をするときはどうしてもいろいろな動作が必要になってくるので、顔の表情とか、こういったこともいいのではないかと思っていますので、結論は、光村図書がいいと思います。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

私も、開隆堂と光村がいいなと思って見ていました。

開隆堂は、学習の流れが、展開が、「Scenes」で新しい表現を学習して、次の「Think」というところで題材内容について考えて、次の「Interact」で学んだ表現で自己表現という、この展開が非常に分かりやすくて、あと、その後に英語の仕組みということで、さっき文法の話題がありましたが、文法の示し方が非常に分かりやすくて、あと、漫画による場面設定が分かりやすいということと、「Retell」の活動があるということも、そのリテリングにもヒントがあって大変有効だな、と思ったりして、開隆堂もいいということ。

あと、光村につきましては、皆さんからおっしゃっていただいたような部分で私も非常に評価しています。小中接続活動が充実しているということもそうなんです、その後に「英語の学び方ガイド」というのが設定されて、そこが非常に有効だな、というふうに私感じました。これが1年生だけでなく、各学年のはじめに「英語の学び方ガイド」が出てきている、非常にその部分、あと、ストーリー性のことも出ていましたが、1年生でストーリーが進んでいって2年生につながる、2年生の一番はじめにはそのストーリーを振り返る活動から入って、そしてこのストーリー性を生かした次の活動を設定しているということで、3年間を通して子どもたちの興味関心がやはり上手につながっていくというのをうまく設定しているな、と思います。あと、QRコードの映像コンテンツともそこが連動していて、非常にうまくできているのではないかな、ということで、そういった点を評価しまして私は光村図書を推したいと思います。

ということで、5人が光村で、あと岡田委員が東京書籍ということですが、多数決ということではないので合意の中で決めたいと思いますが、いかがでしょう、岡田委員。

#### 【岡田教育長職務代理者】

各委員のお考えとかをお聞きしまして、私は、小中の連携というか、つながりというか、流れというところから選ばせていただきましたが、各委員のお話、なるほど、というふうに思いまして、光村でいいというふうに思います。

#### 【小田嶋教育長】

それでは、英語につきましては光村図書出版を採択するというのでよろしいでしょうか。

#### 【各委員】

<可決>

**【小田嶋教育長】**

では、そのように決定いたします。

**⑩道徳**

**【小田嶋教育長】**

続きまして、道徳です。

道徳につきましては、教科化されて2年前に中学校の教科書が初めて採択されました。昨年の小学校のときもそうでしたが、新しく教科化して教科書になったものを採択して、その実践の状況を積み上げている段階で、そんな状況をお聞きしたりしておりましたが、中学校についても教科書たくさんありますが、状況としては同じかと思います。

現行は学研の教科書を使っていますが、教科化されたことで、道徳の授業も非常に充実してきている面も、変わってきた部分もあると思うんですが、その辺の状況を、あと教科書、今現行の使っている現場での状況等をちょっとはじめに指導主事にお聞きしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

**【岡部カリキュラムセンター指導主事】**

中学校は教科化になる前より県で作成した副読本を使っていました。その副読本は、「葛藤資料」と呼ばれるものや、等身大の登場人物の話が多く掲載されていました。教科書になって登場人物の多様さや内容の幅広さが増しました。現場では、そのような多様な教材でどのように授業を構成して進めていくか、というのを学校全体や学年で検討しているというふうに聞いています。また、新学習指導要領を先行実施していることも踏まえて、今は型にはまらない様々な指導方法を考えて実践を積み重ねているところです。生徒の実態に合わせて指導を工夫しているという先生方が多くいらっしゃると思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございました。

教科化によって非常に道徳の授業が変わりつつ充実してきているという状況があると思います。そういった状況を受けまして、各委員の皆様方、現行の学研も、現行のものと新しいものを比べると大きさが違ったりとか中身も少しずつ変わっているところもあるので、その辺の評価と、あと小学校のときもそうだったんですが、教科化されてまだ、今そういった実践を積み上げているところなので、ここで教科書を変えるというのではなくて、現行の教科書をもう少し継続して積み上げていただく中で課題等あればまた見ていことということだと思っんですね。

中学校も基本的には同じような流れにはなるのかな、と思うんですが、ほかの教科書も見ただき、新しい教科書になっている中で、またほかの教科書のいい点ですとか疑問とか気づいている点等も踏まえてちょっと御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

中村委員、お願いします。

**【中村委員】**

今、教育長がおっしゃったように、新しい教科書で道徳が始まってまだ1年ですので、やっと研究の蓄積がされてきた段階で変えると現場は混乱するのかな、という気がいたします。これは小学校の採択のときにも申し上げたんですけれども、道徳に関しては、このまま研究を進めていくという意味で、現状の学研を継続するのがいいのではないかと考えております。

私は、小学校の道徳、中学校の道徳の教科書採択のときも委員をしておりましたので、そのときに読んだんですけれども、本当に一生懸命みなで選びまして、とてもいい教材だと思っています。今も一応読み直しましたところ、学研と、そのときも悩んだ光村が、やっぱりいいと思っています。光村のほうは教材自体にとっても力があると思っています。ですから、とりあえず次の4年間は、まずは学研で新しい道徳というものの在り方を研究していく、その後にもし変えるのであれば変えてもいいと思うのですけれども、今は現状の教科書を使っていくことを私は勧めたいと思います。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

ほかの委員の方からいかがでしょうか。

高橋委員。

**【高橋委員】**

私も中学校の道徳の教科書の前回の採択のときにこの場におりましたので、そのときに、学研を選ぶというところで、そのときの議論でこだわったことが、その入りの部分で、何も書いてない真っさらなところで子どもたちに考えさせたいと、先生と子どもと一緒に悩んで考えて道徳をやって行ってほしい、というところで学研を選んだというふうに記憶しております。

今回、学研ですが、はっきり言うとそのときにこだわった何も書いてないというところが、ほかの教科書に似てマークがあったりとか、割とちょっと文章が追加されたりとか、質問が一つぐらいだったのが増えたりとかというので、ほかの出版社にちょっと近づいたというところで、前回選んでこだわったところがちょっと弱くなったというか、柔らかくなったというところがあるので、それも含めて、これから4年間研究していただいて、また4年後に何がいいのかというところを改めて採択をしていただければいいのかな、というふうに思っています。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

前回の採択、また小学校の採択に関わったお二人から御意見いただきましたが、ほかのお三方は特にございますでしょうか。

岡田委員。

**【岡田教育長職務代理者】**

今お二人の委員からお話があったように、私も学研でいきたいというふうに思いました。川崎の先生方の真摯な、教科書を使って教えていく姿勢という、それをさらに積み重ねていく上でも、現行のものでいきたいというふうに思います。

**【小田嶋教育長】**

岩切委員も同様でよろしいですか。

私も、結論的には現行の学研を引き続き採択しながら研究を進めていってもらいたいと思います。先ほど中村委員からありましたように、前回の採択のときの議論も最終的には光村図書と学研とで教材の提示の仕方というところが一つのポイントになって分かれていきましたが、改めて私も今回、光村の教科書も読んでみて、非常にやっぱり内容が充実しているということと、「考えよう」というところで2つの発問があって、それを次に「見方を変えて」「つなげよう」という、この展開がずっと共通している展開なんです、それが非常に分かりやすいし、それにこだわらずにいろんな展開はできると思うんですが、その部分では若い先生方も教えやすいのかなど。あと、付録が各学年ついていて部分の教材も非常にいいということとか、幾つか評価できる点があったなと思いますが、今回につきましては、皆さん同様、私も学研を推していきたいと思います。

ということで、道德につきましては学研を採択するというでよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

では、そのように決定いたします。

それでは、最後に、全教科の採択結果を確認したいと思います。

国語は、光村図書出版。

書写は、東京書籍。

社会（地理的分野）は、帝国書院。

社会（歴史的分野）は、教育出版。

社会（公民的分野）は、教育出版。

地図は、帝国書院。

数学は、教育出版。

理科は、新興出版社啓林館。

音楽（一般）は、教育芸術社。

音楽（器楽合奏）は、教育芸術社。

美術は、日本文教出版。

保健体育は、東京書籍。

技術・家庭（技術分野）は、東京書籍。

技術・家庭（家庭分野）は、東京書籍。

英語は、光村図書出版。

道德は、学研教育みらい。

以上の採択結果となりましたが、よろしいでしょうか。

**【各委員】**

<了承>

【小田嶋教育長】

それでは、議案第18号はそのように決定いたします。

ここで、15分の休憩を取りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【各委員】

<了承>

【小田嶋教育長】

それでは、15分休憩取りまして、再開は15時5分といたします。よろしく申し上げます。

(14時50分 休憩)

(15時05分 再開)

【小田嶋教育長】

それでは、教育委員会を再開いたします。

#### 議案第19号 令和3年度使用川崎高等学校附属中学校教科用図書の採択について

【小田嶋教育長】

次に、「議案第19号 令和3年度使用川崎高等学校附属中学校教科用図書の採択について」の説明を、指導課長、お願いします。

【細見指導課長】

それでは、「議案第19号 令和3年度使用川崎高等学校附属中学校教科用図書の採択について」御説明申し上げます。

川崎高等学校附属中学校の教科用図書につきましては、公立の中学校で学校教育法第71条の規定により、高等学校における教育と一貫した教育を施すものについては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、採択地区とは別に、学校ごとに種目ごとに採択を行うものと規定されておりますので、議案第18号とは別に採択を実施いたします。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

【小田嶋教育長】

ただいまの説明では、令和3年度使用教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、川崎高等学校附属中学校におきましては、採択地区とは別に、学校ごとに種目ごとに教科用図書を採択することができるとのことでした。

しかしながら、先ほどの令和3年度使用中学校教科用図書の採択と同様の教科用図書を採択することでよろしいでしょうか。

【各委員】

<可決>

**【小田嶋教育長】**

では、そのように決定いたします。

採択結果につきましては、先ほど18号で申し上げたものと重なりますので申し上げませんが、議案第19号はそのように決定します。

**議案第20号 令和3年度使用小学校教科用図書の採択について**

**【小田嶋教育長】**

次に、「議案第20号 令和3年度使用小学校教科用図書の採択について」の説明を、指導課長、お願いいたします。

**【細見指導課長】**

それでは、「議案第20号 令和3年度使用小学校教科用図書の採択について」御説明申し上げます。

小学校につきましては、令和3年度使用教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、今年度と同一の教科用図書を採択することが義務づけられておりますが、毎年、採択を実施しなければならないため、採択を行うものでございます。

このため、本年度におきましては、現在使用している教科用図書と同一のもので、採択を行うことについて、令和3年度川崎市使用教科用図書採択方針において定めたものでございます。

なお、令和3年度に使用する教科用図書につきましては、議案書の一覧表のとおりでございます。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

**【小田嶋教育長】**

ただいまの説明では、令和3年度使用小学校教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、今年度と同一の教科用図書を採択することになるとのことでした。

何か御質問等はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、議案第20号は原案のとおり採択してよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

それでは、議案第20号は原案のとおり採択いたします。

## 議案第 2 1 号 令和 3 年度使用高等学校教科用図書の採択について

### 【小田嶋教育長】

次に、「議案第 2 1 号 令和 3 年度使用高等学校教科用図書の採択について」の説明を、指導課長、お願いいたします。

### 【細見指導課長】

それでは、「議案第 2 1 号 令和 3 年度使用高等学校教科用図書の採択について」御説明申し上げます。

高等学校の教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の適用を受けないため、学校が教科用図書目録に登録されたものの中から、毎年度、使用する教科用図書を選定しております。

はじめに、A 4 横書きの「令和 3 年度使用教科用図書採択の観点（高等学校）」の資料をごらんください。こちらは、各学校に設置され、教科ごとに全ての教員で構成された「校内調査研究会」において、各学校の学校目標や教育方針等に即し、各教科の「教科目標」や「育成したい資質能力」などを示したものでございます。

次に、A 4 縦書きの「令和 3 年度使用教科用図書採択候補一覧（高等学校）」の資料をごらんください。こちらは、「校内調査研究会」におきまして、選定候補として調査研究した調査結果報告書及び各学校で教科ごとに選任された教員で構成される「調査研究会」で作成した調査研究報告書を基に、学校長を長とした「校内採択候補検討委員会」において作成されたものでございます。複数の教科用図書の中から、採択候補の教科用図書に丸印をつけたものとなっております。

いずれの資料につきましても、教科用図書選定審議会において審議され、最終的に教育委員会において、高等学校で使用する教科用図書の採択を行うこととしております。

以上、議案第 2 1 号につきまして御説明申し上げます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

### 【小田嶋教育長】

高等学校の教科用図書につきましては、毎年度、学校が、教科用図書目録に登録されたものの中から採択を希望する教科用図書を選定するとのことでした。

これまで、教科用図書選定審議会の審議結果及び補足意見や要望があった場合には、慎重に議論をまいりました。本日、参考資料としてお配りした教科用図書選定審議会の意見一覧表の中に高等学校についても意見が記載されておりますが、これ以外で特別な意見や要望のようなものはありましたでしょうか。

### 【細身指導課長】

選定審議会からの意見等につきましては、本日の参考資料として配付いたしました「令和 2 年度川崎市教科用図書選定審議会各教科別意見等一覧」のとおりでございます。

### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。



審議会からは、御説明いただいたとおりで、意見・要望は参考資料の意見等一覧に記載のとおりということですが、委員の皆様方から何か御意見や御質問等がございますか。

高橋委員。

**【高橋委員】**

やはり高校の教科書ということなので、大学入試も視野に入れたものになると思うんですけども、大学入試の制度もいろいろ大きく変わる中で、その辺りの対応については各学校のほうではどういうふうに考えられたのかなというのがもしあれば教えてください。

**【小田嶋教育長】**

指導主事のほうから。

**【山中カリキュラムセンター指導主事】**

川崎市の高등학교におきましては、全日制が5校、定時制が4校ございまして、特に全日制の普通科の学校につきましては、大学入試も視野に入れた教科用図書を選定するという念頭に置いて選ばれているところもあるかとは思いますが。また、幸高校ですとか川崎総合科学高校のように専門学科のところは、それ以外のいろいろな専門学科のところを生かしたものを選んでいくというふうに伺っております。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかには何かございますか。

それでは、議案第21号は原案のとおり採択してよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

それでは、議案第21号は原案のとおり採択いたします。

議案第22号 令和3年度使用特別支援学校教科用図書の採択について（学校教育法第34条第1項検定済教科書）

議案第23号 令和3年度使用特別支援学校小中学部及び小中学校特別支援学級教科用図書の採択について（学校教育法第34条第1項文部科学省著作教科書）

議案第24号 令和3年度使用特別支援学校小中学部及び小中学校特別支援学級教科用図書の採択について（学校教育法附則第9条教科用図書）

議案第25号 令和3年度使用特別支援学校高等部教科用図書の採択について（学校教育法附則第9条教科用図書）

**【小田嶋教育長】**

続きまして、「議案第 2 2 号 令和 3 年度使用特別支援学校教科用図書の採択について（学校教育法第 3 4 条第 1 項検定済教科書）」、「議案第 2 3 号 令和 3 年度使用特別支援学校小中学部及び小中学校特別支援学級教科用図書の採択について（学校教育法第 3 4 条第 1 項文部科学省著作教科書）」、「議案第 2 4 号 令和 3 年度使用特別支援学校小中学部及び小中学校特別支援学級教科用図書の採択について（学校教育法附則第 9 条教科用図書）」、「議案第 2 5 号 令和 3 年度使用特別支援学校高等部教科用図書の採択について（学校教育法附則第 9 条教科用図書）」。

これら議案 4 件につきましては、いずれも特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書の議案となりますので、議案 4 件を一括して審査したいと思いますのですが、御異議ございませんでしょうか。

**【各委員】**

<了承>

**【小田嶋教育長】**

それでは、議案 4 件を一括して審査いたします。

議案第 2 2 号から議案第 2 5 号の議案 4 件の説明を、指導課担当課長、お願いいたします。

**【武田指導課担当課長】**

それでは、「議案第 2 2 号」から「議案第 2 5 号」まで、まとめて御説明させていただきます。

はじめに、「議案第 2 2 号～2 5 号資料」をごらんください。特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書について、御説明させていただきます。

「1 特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書に関する法律」についてですが、教科用図書は、学校教育法第 3 4 条第 1 項に基づく「検定済教科書」と呼ばれる文部科学大臣の検定を経た教科用図書、それと「著作教科書」と呼ばれる文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければなりません。しかし、学校教育法附則第 9 条に基づき、文部科学大臣の定めるところにより、「附則第 9 条図書」と呼ばれる学校教育法第 3 4 条第 1 項に規定する教科用図書以外の教科用図書を使用することができるとなっております。

次に、「2 特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書の種類」についてですが、特別支援学校及び特別支援学級で利用できる教科用図書は、(1) から (3) までの 3 種類となります。

「(1)」は、学校教育法第 3 4 条第 1 項に基づく「検定済教科書」でございます。

「(2)」は、特別支援学校及び特別支援学級に在籍する児童生徒が学習内容をよりよく理解できるよう、障害の種別に応じて文部科学省が作成した「著作教科書」でございます。

「(3)」は、学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書で、市販されております絵本等の一般図書や下の学年用の検定済教科書、下の学部用の☆本、障害等のある児童生徒のための検定済教科書を原典とする拡大教科書及び点字教科書でございます。

次に、「3 特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書一覧」をごらんください。こちらは、議案ごとに該当する学校をお示ししたものでございます。

それでは、はじめに「議案第 2 2 号 令和 3 年度使用特別支援学校教科用図書の採択について

(学校教育法第34条第1項検定済教科書)」でございます。

議案書の1ページをごらんください。特別支援学校小中学部につきましては、小中学校と同様に「検定済教科書」を使用して教育を行う場合、小中学校と同一の「検定済教科書」を採択するものでございます。そのため、小学部につきましては、現在使用している教科用図書と同一のものを採択するものでございます。

続きまして、議案書の2ページをごらんください。中学部につきましては、今年度採択した教科用図書を採択するものでございます。

続きまして、議案書の10ページをごらんください。高等部につきましては、特別支援学校高等部用の教科書目録が作成されていないため、文部科学省発行の「令和3年度使用高等学校用教科書目録」から、学校における調査研究に基づき、「検定済教科書」を採択するものでございます。

次に、「議案第23号 令和3年度使用特別支援学校小中学部及び小中学校特別支援学級教科用図書の採択について(学校教育法第34条第1項文部科学省著作教科書)」でございます。

こちらは、文部科学省発行の「令和3年度使用特別支援学校用小・中学部教科書目録」に記載されております教科用図書を、障害種別、小中学部別に一覧にしたものでございます。

議案書の1ページをごらんください。主に聴覚障害の児童生徒が使用いたします。上の表は、特別支援学校小学部及び小学校特別支援学級において、言語指導を行うための教科用図書でございます。下の表は、特別支援学校中学部及び中学校特別支援学級において、言語指導を行うための教科用図書でございます。

議案書の2ページをごらんください。主に知的障害の児童生徒が使用いたします。上の表は、特別支援学校小学部と小学校特別支援学級用の教科用図書でございます。下の表は、特別支援学校中学部と中学校特別支援学級用の教科用図書でございます。

知的障害を有する児童生徒の障害の程度は一律ではないため、教科用図書の学年指定は弾力化され、「☆」印の数で学習内容の程度を表しております。

次に、「議案第24号 令和3年度使用特別支援学校小中学部及び小中学校特別支援学級教科用図書の採択について(学校教育法附則第9条教科用図書)」についてでございます。

学校教育法附則第9条教科用図書は、児童生徒の障害の程度が多様であり、教育課程も特別であるため、選定に当たっては、文部科学省発行の「令和3年度用 一般図書一覧」と神奈川県教育委員会作成の「令和3年度使用 神奈川県立特別支援学校採択教科用図書調査研究資料」を参考に、各学校で十分な調査研究を行い、教科の主たる教材として、教育目標の達成上、適切な図書を採択するものでございます。

次に、「議案第25号 令和3年度使用特別支援学校高等部教科用図書の採択について(学校教育法附則第9条教科用図書)」についてでございます。

議案書の1ページをごらんください。議案第24号と同様に、各学校で十分な調査研究を行い、教科の主たる教材として教育目標の達成上、適切な図書を採択するものでございます。

以上、令和3年度に使用いたします特別支援学校及び特別支援学級の教科用図書の採択について御説明いたしました。御審議のほど、よろしく願いいたします。

#### 【小田嶋教育長】

ただいまは、議案第22号から議案第25号までにつきまして一括して説明を頂きました。御質問等はございますか。

石井委員。

**【石井委員】**

個々の教育ニーズに対応するために幅広い図書を選んでいただいていることは、本当にありがたいことだと思います。私は、今年度、教科書の採択に加わるのは初めてなものですから、具体的にどのような視点で教科書を選んでいらっしゃるのか、特に川崎で大事にしている点や丁寧にしている点などがありましたら教えていただければと思います。

**【小田嶋教育長】**

それでは、高山担当課長からお願いします。

**【高山指導課担当課長】**

ありがとうございます。

まず、川崎で特に大事にしている点につきましてでございますけれども、特別支援学校や特別支援学級に在籍しております児童生徒の適切な教育活動を行う上に当たりまして、一人ひとりの障害の状況や教育的ニーズに的確に応える教育を行うということを大切にしております。

こうしたことから、個別の指導計画の目標を達成することにつきまして、可能な限りそれらの目標や内容に即した教科書を各学校で選ぶように指導しております。具体的には、担当の教員が教科書展示会や直接書店に足を運びまして本の具体を見て、校内で情報共有をします検討会議などを経た上で、提案をしていただくようになっております。また、本市につきましては、市立の小中学校にそれぞれ特別支援学級を設置しておりますので、そちらに在籍する生徒につきましても、通常の学級での交流及び共同学習などを進めていく上で、個別にそのような点にも配慮いたしまして、また、保護者や学校と情報共有を行いつつ、丁寧に各学校において教科書の選定を行っているところでございます。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかには質問ございますか。よろしいでしょうか。

それでは、採決に入りたいと思います。

まず、議案第22号について、原案どおり採択してよいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

それでは、議案第22号は原案のとおり採択いたします。

次に、議案第23号について、原案のとおり採択してよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

それでは、議案第23号は原案のとおり採択いたします。

次に、議案第24号について、原案のとおり採択してよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

それでは、議案第24号は原案のとおり採択いたします。

次に、議案第25号について、原案のとおり採択してよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<可決>

**【小田嶋教育長】**

それでは、議案第25号は原案のとおり採択いたします。

## 6 閉会宣言

**【小田嶋教育長】**

本日の会議は、これをもちまして終了いたします。お疲れさまでございました。

(15時26分 閉会)